

<http://www.yokohamaymca.org/AIDS/>



■目次

2005AIDS文化フォーラム in 横浜の概要と特徴	2
2005プログラム	4
オープニング・特別企画	6
社会問題とHIV/AIDS	8
NPO/NGOの取り組み・国際的視点から	10
若者の視点から	14
HIV/AIDSの現状	16
HIV/AIDSと共に生きる	20
文化・パフォーマンス	24
セクシュアリティ・性教育	26
展示コーナー	36
前実行委員長広瀬誠さんのこと	43
会場ボランティア	44
フォーラム全体集計表	46
AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち	50

2005 (第12回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

テーマ:「つながる空間」



■開催概要

◇名称：2005AIDS文化フォーラム in 横浜(第12回)
 ◇期間：2005年8月5日(金)～8月7日(日)
 ◇テーマ：「つながる空間」
 ◇場所：神奈川県民センター
 ◇主催：AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
 ◇共催：神奈川県
 ◇後援：横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市、神奈川県教育委員会、横浜商工会議所エイズ問題対策懇談会、第7回太平洋地域エイズ国際会議組織委員会、エイズ予防財団、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

◇運営組織：
 組織委員長 (山根誠之・横浜YMCA)
 組織委員会 (横浜商工会議所、横浜いのちの電話、横浜青年会議所、横浜YWCA、横浜YMCA)
 運営委員長 (岩室紳也)
 運営委員会 (医師、保健師、教師、大学生、NPO代表者などのボランティアで構成)
 事務局
 横浜YMCA (大江浩 郡司すみれ)

2005年AIDS文化フォーラム in 横浜の概要と特徴



プログラムが
より多彩に
—新規参加10団体—



◆参加データ

「つながる空間」というテーマのもと、発表企画50・展示22・パーティ2計74の企画が集いました。3日間の延べ参加者数は、5,509名（過去3番目の来場者数）でした。過去最高の来場者数となった昨年度（83企画：延べ参加者数6,031名）に比べ、総数は少ないですが、各企画の集客数はむしろこれまで以上に上がり、プログラムの質の高まりを感じさせます。

◆オープニング

「飯島愛と北山翔子が語る“愛・性・生 ～HIVをもらってしまうとき～”

タレントの飯島愛さんが出演し、医師 岩室紳也さん（フォーラム実行委員長）をナビゲーターとして、HIV感染者である北山翔子さんと対談をしました。それぞれの実体験を元に、人を愛すること、そして生きることをテーマとして語られた言葉は、それぞれに深く響きました。

◆「夜回り先生」水谷修さん（フォーラム初の事前申し込み制導入！！）

昨年来、著書「夜回り先生」発行により大ブレイクした水谷先生（フォーラムの名物講演者）が、朝出張先の鹿児島からフォーラム会場へ、そして講演後仙台へと「超」多忙なスケジュールの中、フォーラムではいつもの熱い力強いメッセージに酔いました。（会場の都合により、フォーラム始まって以来の事前申し込み制となりました）

◆ 教育関係のプログラムのニーズ高まる

「学習指導要領ってどうなっているの～小・中・高校との連携を考える」
「医者と教師がつくるエイズ教育」など、HIV/AIDSの問題を学校教育の現場でどのように伝えていくか、というセッションに多くの教育関係者が集われました。切実な課題であり、より幅広く学校を始め地域社会の理解を得ていくためにもねばり強い取り組みが求められています。

◆ プログラムがよりバラエティに富んで

医療・教育・人権・国際・ジェンダー・若者・セクシャリティ・子どもなどの各分野で、基礎講座から専門家向けの最新情報までカバーされる多種多様なプログラムは今年も好調でした。HIV/AIDSの問題を様々な角度から捉え、いのち・そして私たちの生き方を問い直す機会となりました。その中でも、初企画のエイズチャットルームは、若者の若者による若者のためのフォーラムにするため、自由に語り合える「しゃべり場」となりましたし、「マスコミから見たエイズの現状・エイズ報道の現状と課題」など、HIV/AIDSとメディアにも注目しました。（新規参加団体10に）

◆第7回エイズアジア太平洋地域国際会議(ICAAP)からフォーラムへ、 そして第20回日本エイズ学会

本フォーラムの常連でも7月初旬に神戸で開催されたICAAPに集中した団体。ICAAPに続き、フォーラムと両方に参加された団体。フォーラムに絞った新規参加の団体など、色々でしたが、関係者・団体にとっては、忙しい熱い夏となりました。AIDS & Society研究会議では、ICAAPを受けて「まだまだ、終わりなき夏」と題した報告が、また来年開催される第20回日本エイズ学会（テーマ：Living together～ネットワークを広げ、真の連携を創ろう）に向けたセッションも持たれ、種々の提言活動から多くの学びがありました。

◆特別企画(アジアの映画上映や写真展など)好評

2005バンコク国際映画祭出展作品の「Yesterday Today Tomorrow～昨日 今日そして明日へ・・・」（制作：直井里予・アジアプレスインターナショナル）が反響を呼びました。タイ北部パヤオの村でHIVに感染しながらも生きる希望を見失わないでひたむきに生きる2家族を3年間に渡り見つめたドキュメントで、静かなそして淡々とした風景と暮らしの中にいのちの問題が語られていました。

バンコク在住のフォトジャーナリスト後藤勝さんによる写真展示「絶望のなかのほほえみ～カンボジアのエイズ病棟から」は、HIV感染者/AIDS患者の現実、限られた時を力を尽くして生きる人間の尊厳について深く考えさせられ、彼らと向き合う後藤さんの「生」へのメッセージが伝わる内容でした。

◆ボランティア数過去最高(110名！)

3日間で延べ110名のボランティア（多くは、中高生・専門学校生・大学生などの若い世代）が集い、HIV/AIDSを考える本フォーラムを支えてくださいました。やはり大きいのは「ロコミ（知り合いからの誘い）」。リピーターも多く、年1回のフォーラムでの様々な出会いや学びと楽しさが魅力となっている大変ユニークな場であることを再確認しました。

◆全国各地からの参加(学生がトップ！！)

アンケート集計結果から見ますと、北は北海道から南は長崎まで、参加者は全国各地からいらっしゃいます（+米国からの参加もあり）。12回目を迎える全国唯一のHIV/AIDSに関する市民フォーラムとしての認知度は高く、保健医療関係者（20.9%）や教育関係者（22.5%）を抜いて学生の参加（24.6%）が多かったことは目を見張ります。

◆ネットワーキングパーティ大いに盛り上がる

昨年からはまったネットワーキングパーティは、今年も熱気に包まれた盛り上がりでした。会場（2階）の底が抜けんばかりの盛況ぶりで、年1回の旧交を温める場でもありつつ、同時に新しい発見や交流・感動が得られる集いとなりました。まさにネットワーキングとはこのことだ、と実感したひとときでした。




ボランティア数が
110名と
過去最高に！！



「2005 AIDS 文化フォーラム in 横浜 プログラム」

* 入場無料 (都合によりプログラムが変更になることがあります。最新の情報はその都度、ホームページでご確認ください。)

部屋	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00
ホール	オープニング企画 飯島愛と北山翔子が語る “愛・性・生” 	男性同性愛者への正しい理解と HIV/AIDS 感染予防・普及啓発のあり方 (神奈川県健康増進課)	エイズ基礎講座① (エイズって何?)
301 (90)		北沢杏子の「エイズの授業」 一人人形を使ってー (性を語る会)	Positive!!!!!! with HIV (パトリック&紳也)
303 (30)			日本赤十字社医療センター HIV/AIDS 事業報告 (日本赤十字社医療センター国際医療救済部)
304 (60)		HIV スクリーニング検査体制の現状と課題 ーガイドラインの第2版作成の経過からー (今井光信 神奈川県衛生研究所)	共に考えよう! エイズ対策と性(命)の教育 (PNY びい)
306 (60)		性感染症の最新情報 (今井 理恵: 港町診療所婦人科)	子どもからの SOS ~北タイにおける貧困への取り組み~ (長澤勲+横浜 YMCA)
406 (30)		エイズチャットルーム (12:00~13:00) (みんなの疑問と声を集約)	

ネットワーキング・TEA パーティ 8月5日 (金) 18:15~19:15 301 会議室

部屋	10:00~12:00	13:00~15:00	16:00~18:00
ホール	特別企画2 ドキュメンタリー映画 「昨日 今日 そして明日へ・・・」		学習指導要領ってどうなっているの 小・中・高校との連携を考える (神奈川県教育委員会保健体育課、保健体育科 教諭、養護教諭、PTA、医師)
301 (90)	HIV/AIDS 教育で使いたい Power Point 教材 (地域医療振興協会 岩室紳也)	まだまだ、終わらな夏 (神戸会議報告) (AIDS&Society 研究会議)	後藤勝写真展トーク 絶望のなかの「まよえみ」 ~カンボジアのエイズ病棟から~ (後藤勝・由美 [Reminders Project])
303 (30)	心と心をつなぐ腹話術 ~教育プログラム~ (JOINT HEART)	自由を目指して ~人身売買、今私たちにできること~ (ポラリスプロジェクト)	ICAAP ユースフォーラムの報告 ~ユースの力を社会へ~ (7th ICAAP ユースフォーラム実行委員会)
304 (60)	アイスブレイカーズ (横浜エイズ勉強会)	いろいろな性 安達 優雅子 (AIDS ネットワーク横浜)	日本への提案 アビー・ニコラス・フリー (AIDS ネットワーク横浜)
305 (60)	7th ICAAP セックスワーカー・プログラム報告会 (SWASH (Sex Work and Sexual Health))	南アフリカ共和国でエイズとともに生きる (小山えり子 [ニッレレキ事務局])	セクシャリティーと AIDS 映画「50×5」~友達を信じられますか?~ (横浜 Cruise ネットワーク)
306 (30)	フィリップ = 地域に根ざす HIV 陽性者支援 = (PHILIP)	子どもと学ぶエイズ (洪久夫(ホンヒサオ)元サークル ホン代表と川口子どもネットワーク)	性教育における参加型授業を考える ("人間と性" 教育研究協議会かながわサークル)
403 (60)		エイズと私たちの関わり~学校現場での実践から~ (山田七重)	薬害エイズはまだ終わっていない ー繰り返される薬害 (薬害エイズを考える山の手の会)
404 (30)	HIV/AIDS と若者の声 (国連研プロジェクト)	すごろく de 性教育 (シェア=国際保健協力市民の会 エイズボランティアチーム ハータス)	PWA 限定「治療と生活—自立支援法時代」 (PHILIP) 注 PWA 限定
406 (30)		エイズチャットルーム (15:00~16:00) (みんなの疑問と声を集約)	

ネットワーキングパーティー: 8月6日 (土) 18:30~ 中華料理屋 迎珍 内容: 中華料理を食べながら交流

部屋	10:00~12:00	13:00~15:00	15:15~16:30
ホール	特別企画2 ドキュメンタリー映画 「昨日 今日 そして明日へ・・・」	特別企画 夜回り先生 ※ 事前申込制 (水谷修)	ホール 琉球太鼓 15:15~ (横浜ダルクケアセンター) 全体会・閉会式
301 (90)	医者と教師がつくるエイズ教育 (安藤晴敏・岩室紳也)	「マスコミから見たエイズの現状エイズ報道の現状と 課題」(森谷直子 読売新聞)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 展示団体 ◆NPO 法人エンパワメントかながわ ◆ポラリスプロジェクト ◆NGO アフリカ友の会 ◆特定非営利法人国境なき子ども達 ◆オカモト株式会社 ◆BAN ROM SAI ◆AIDS & Society 研究会議 ◆社団法人日本家族計画協会 ◆株式会社ケーシーズ ◆ATACinNara ◆性を語る会 ◆アジアの女性と子どもネットワーク ◆東京ビジュアルアーツ ◆ライフ・エイズ・プロジェクト ◆ABCキルトサポートかながわ ◆特定非営利法人国境なき医師団 ◆横浜 AIDS 市民活動センター ◆AIDS カスタネット倶楽部 ◆PHILIP ◆ふれきしぶる ◆CAI ◆株式会社さくら医科研究所 </div>
302 (30)		セックスは権利か?! ~性行為の自由について考える~ (TENCAI)	
303 (30)	治療薬・サプリ ~ 飲む人・飲んでない人 (ぼーとたまがわ)	STD・AIDS 出前講演~どう話してる? 金井多恵 (相模原市保健所) 富岡順子 (厚木保健福祉事務所)	
304 (60)	学校や地域で役立つ朗読ワークショップ (岡島龍彦 H.I. Voice Act)	LAP Positive TALK の取り組み (LAP)	
305 (60)	エイズの最新治療とその課題 (上田敦久 横浜市立大学附属病院第一内科準 教授)	CAP (子どもへの暴力防止プログラム) 中高生向けプログラム紹介 (NPO 法人エンパワメントかながわ)	
306 (30)		「もし、世界が100人の村だったら」 AIDS パージョン (横浜 YMCA ACT)	
403 (60)	学校での HIV 教育と同性愛 (AGP [教育子ども分科会])	途上国における HIV/エイズ (ふれきしぶる [ユニセフ支援市民グループ])	
404 (30)	Living Together: ネットワークを広げ真の連携を創ろう/ 第20回日本エイズ学会(2006)が目指すもの ふれいす東京代表 池上千寿子 (第20回日本エイズ学会会長)	学生によるピアエデュケーション (SteADy Project & 川田龍平)	

PLWHA・PHA=People living with HIV/AIDS

(* プログラムによっては、プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。)

社会問題・国際的視点から

- CAP (子どもへの暴力防止プログラム) 中高生向けプログラム紹介 (NPO法人エンパワメントかながわ)
- 子どもからのSOS～北タイにおける貧困への取り組み(長澤勲+横浜YMCA)
- ◆自由を目指して～人身売買、今私たちにできること～(ポラリスプロジェクト)
- ◆青少年自立支援とリプロダクティブ・ヘルス(特定非営利法人国境なき子ども達)
- 薬害はまだ終わっていない～繰り返される薬害(薬害を考える山の手の会)
- AIDS日本への提案 アビー・ニコラスフリー (AIDSネットワーク横浜)
- 南アフリカ共和国でエイズとともに生きる(小山えりこ [ニバルレキレ事務局])
- ◆アフリカ友の会:エイズ患者とエイズ孤児(NGOアフリカ友の会)
- セックスは権利か?!～性行為の自由について考える～(TENCAI)
- 7thICAAPセックスワーカー・プログラム報告会(SWASH)

エイズの現状

- ◆性感染症感染者の推移(オカモト株式会社)
- 性感染症の最新情報(今井理恵:港町診療所婦人科)
- ◆HIV感染孤児施設BAN ROM SAI (BAN ROM SAI)
- ◆まだまだ、終わらな夏一神戸会議報告-(AIDS & Society 研究会議)
- ◆途上国におけるHIV/エイズ(ふれきしぶる(ユニセフ支援市民グループ))
- 日本赤十字社医療センターHIV/AIDS事業報告 (日本赤十字社医療センター国際医療支援部)
- HIVスクリーニング体制の現状と課題(今井光信 神奈川県衛生研究所)
- エイズの最新治療とその課題(上田敦久 横浜市立大学附属病院第一内科準教授)
- ◆体の危険信号あなたは何で知りますか(株式会社さくら医科学研究所)
- Living Together:ネットワークを広げ新しい連携を創ろう/第20回日本エイズ学会が目指すもの(池上千寿子 [ふれいす東京代表・第20回日本エイズ学会会長])

セクシュアリティ・性教育

- ◆JAFPAの教材展示(社団法人日本家族計画協会)
- 学校でのHIV教育と同性愛(AGP)
- エイズと私たちの関わり(山田七重)
- セクシュアリティとAIDS 映画「50×5」～友達を信じられますか?～ (横浜Cruiseネットワーク)
- 共に考えよう!エイズ対策と性(命)の教育(PNY)
- 医師と教師が作るエイズ教育(安藤晴敏・岩室紳也)
- ◆HIV/エイズ啓発デジタルコンテンツ紹介(株式会社ケーシーズ)
- 学習指導要領ってどうなってるの 小・中・高校と地域の連携を考える (神奈川県教育委員会保健体育課、保健体育科教諭、養護教諭、PTA、医師)
- ◆役に立つエイズの教材(性を語る会)
- ◆HIV/AIDSについて語ろうよ!(アジアの女性と子どもネットワーク)
- 子どもと学ぶエイズ(洪久夫代表と川口子どもネットワーク)
- いろいろな性 安達優雅子(AIDSネットワーク横浜)
- セクシュアリティとエイズ(仮)(横浜Cruiseネットワーク)
- 学校や地域で役立つ朗読ワークショップ(岡島龍彦 H.I.Voice Act)
- HIV/AIDS教育で使いたいPowerPoint教材(地域医療振興協会 岩室紳也)
- 北沢杏子の「エイズの公開授業」～一人人形を使って～(性を語る会)
- 人間と性(教育研究協議会かながわサークル)
- STD/AIDSの出前講演～どう話してる?(金井多恵・富岡順子)
- ◆エイズと結核感染症のなぞ(ATACinNara)
- アイスブレイカーズ(横浜エイズ勉強会)
- 男性同性愛者への正しい理解とHIV/AIDS感染予防普及啓発のありかた (神奈川県健康増進課)
- 性教育における参加型授業を考える (“人間と性”教育研究協議会かながわサークル)
- 学生によるピアエジュケーション(STeAdy&川田龍平)

若者の視点から

- ◆エイズポスター展「わたしの目」 (東京ビジュアルアーツ)
- HIV/AIDSと若者の声 (国連研プロジェクト)
- 7thICAAPユースフォーラムの報告 ～ユースの力を社会へ～ (7thICAAPユースフォーラム実行委員会)

HIV/AIDSと共に生きる

- Positive! !!!!!!!with HIV (Patrick&紳也)
- 絶望のなかのほほえみ(カボジアのエイズ病棟)(後藤勝+写真展)
- ◆LAP Positive TALKの取り組み (ライフ・エイズ・プロジェクト)
- フィリッパ=地域に根ざすHIV陽性者支援(PHILIP)
- ◆PHILIP=武相地域からの出発(PHILIP)
- 治療薬・サプリ～飲む人・飲んでない人(ぼーとたまがわ)
- PWA限定「治療と生活—自立支援法時代」

国際NGO・NPOの取り組み

- ◆ABCキルトサポートかながわの活動紹介 (ABCキルトサポートかながわ)
- ワークショップ「もし、世界が100人の村だったら」 AIDSバージョン(横浜YMCA ACT)
- すぐろくde性教育(シェア=国際保健協力市民の会エイズボランティアチーム ハータス)
- ◆国境なき医師団日本(特定非営利法人国境なき医師団)
- ◆AIDS&Society研究会講ブース(AIDS&Society研究会講ブース)
- ◆横浜AIDS市民活動センターの活動紹介 (横浜AIDS市民活動センター)
- ◆NPO法人エンパワメントかながわの活動紹介 (NPO法人エンパワメントかながわ)

文化・パフォーマンス・その他

- 心と心をつなぐ腹話術=教育プログラム=(JOINT HEART)
- ◆一服のお茶から(神奈川県立舞岡高等学校茶道部)
- ◆エイズが育てる愛がある(AIDSカスタネット倶楽部)
- 琉球太鼓(横浜ダルクケアセンター)
- エイズチャットルーム(みんなの疑問と声を集約)
- ◆2005エイズ文化フォーラムin横浜×Happy Truck 限定コラボモデル、レッドリボンピアス販売!(CAI)

特別企画1 夜回り先生(水谷修)

※混雑が予想されるため事前申込制です。往復はがきで事務局までお申込み下さい。
官製往復はがきの往信面に「8月7日夜回り先生申込」、返信宛先に「本人住所氏名」をご記入ください。
7月30日午前必着 一人一枚のみの応募(厳守)
後日、抽選結果をお知らせします。当日必ず、「参加可」のお葉書をご持参下さい。お葉書がない場合は、無効となります。ご了承下さい。

特別企画2

2005バンコク国際映画祭出展作品

『Yesterday Today Tomorrow 昨日 今日そして明日へ...』上映

製作:直井里予、アジアプレス・インターナショナル
タイ北部の村でHIVに感染しながらも生きる希望を見失わない家族を3年間に渡り見つめたドキュメンタリー (入場無料)

※ ◆は展示、□は講演です。





□ オープニング企画

飯島愛と北山翔子が語る “愛・性・生”

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：

厚生労働省主催の2003年の世界エイズデーイベントからエイズ関連の活動をされているタレントの飯島愛さん。「神様がくれたHIV」の著者で、自らHIVに感染していることをカミングアウトされている北山翔子さん。二人の女性が、いまHIV/AIDSの現状をどう考え、女性として、人としてこれから日本におけるエイズ問題をどう考えればいいのかをフロアからの質問を交えて率直に話し合った。（司会進行：岩室紳也）

来場者感想：

お二人（飯島さん、北山さん）がとても等身大でよかった。HIVの問題（日本の問題）はHIVに対する偏見と考えています。「つながる空間」という今年のフォーラムのテーマ、偏見を生んだ時間の空間をうめることがお二人のいろいろな発言からできたのではないかと思います（40代、保健医療関係）。今までHIVとAIDSの違いやそれぞれの内容をまったく知らなく、真剣に考えたことがなかったのですが、今回話を聞いて決して自分とは関係のないものではなく、とても大切なことなんだと知りました（10代、学生）。“心”を学びました。ありがとうございました（30代、教育関係）。検査の重要性が語られ、現実には保健所の敷居が高いことが検査人口の減少にあらわれていることが指摘されたので行政として、ぜひ何らかの方策を考えていただきたい。北山さんの出産希望を伺い、前向きな生き方に敬意を評したいと思いました（60代）。気軽に聞いてよかったです。飯島愛さん見直しました。もっと貴高くとまっている人だと勘違いしていました（40代、教育関係）。とても、和やかな雰囲気の中、進行のしかたがよかったです。わかりづらい点や、本音の部分を飯島さんがズバッと切っていたのがすごく印象的で、また、勉強になりました。北山さんがコンドームなしでセックスをした経験の話してくださったのが一番心に残りました。言わなくちゃ、と思いつつパートナーに言い出せない気持ち、してしまった後で悩んだ気持ち、いろんなことを想像することができました。HIVが身近に感じられました（20代、教育関係）。昨年に続き飯島愛さんの話を聞きましたが飯島さんは昨年と違ってエイズに対して受け入れている感じが出ています。一般的な質問に対してもしっかりかかっています（40代、主婦）。いろいろと悩み、ふっきれているからこそ人前でポジティブに性やエイズのことを語れていると思ってたけど、今もまた常にいろいろ考えたり悩んでいたりで、その様子がすっごく生き生きしているように見えた。悩んだり考えたりする姿を実際に人前に素直に見せてもらえてよかったです（20代、保健医療関係）。会場からの質問を聞いていると、本当に基本的な事柄が未だ社会に浸透していないのだなと感じた（40代、教育関係）。最後にあった提案のように、反対意見の方が出ると面白そうですね（30代、保健医療関係）。

連絡先：

北山翔子さんへの講演は岩室紳也のHP（紳也's HP : <http://iwamuro.jp/>）からメールで受け付けています。

“心”を学びました



□水谷修「夜回り先生」

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：

恒例のフォーラム名物「水谷修先生」の講演。不登校・ひきこもり・リストカット・薬物乱用……。夜の街で出会う多くの生き難い日々とを生きる若者たちとの向き合いと現実との闘いを熱く語る2時間でした。

当日朝鹿兒島から横浜へ、講演後即仙台へと旅だつて行かれました。

来場者感想：

水谷修さんと同年齢の教員です。日々の教育活動の中で、押しつぶされそうになり、無力さを感じていますが、毎年水谷さんの講演に背中を押されます。後数年で、この仕事を辞めようと思っていましたが、もう少し子どもたちのために頑張ろうと思います。

現実がつらく感じました。とてもつらいです。水谷先生に幸せでいて欲しいです。

私は今21歳です。子どもに胸を張れる大人になります。

涙が出てきました。14歳の息子を持つ親です。現代の社会を鋭く語られ、胸が痛みます。

夫や知り合いのみんなが息子を誘ってくれば良かった。夜回り先生の講演に出会えたこと、自分の回りにも微力ですが、広めていきたい。

とにかく感動して、考えさせられ、ショックです。幸せに生きている私には知らない世界がたくさんあるってこと、目をつぶってしまえば楽しいかも知れない。でも知らんぷりの世界に明るさや幸せはないって今日やっぱり思ったので、私はもっと知ろうと思いました。

真実を感じて考え行動できる大人になろうと思いました。

連絡先：

水谷修

URL：<http://koubunken.co.jp/mizutani/main.html>

BBS：<http://koubunken.co.jp/mizutani/keij/html>

URL2：<http://sanctuarybooks.jp/mizutani/>



とにかく感動して
考えさせられ
ショックです



社会問題とHIV/AIDS

□薬害エイズはまだ終わっていない

—繰り返される薬害—

主催：薬害エイズを考える山の手の会

内容：

1996年3月、薬害エイズ訴訟は、薬害エイズ被害者と国・製薬企業との間で和解し、国は被害者に対して謝罪しHIVの医療体制の改善等を約束しました。被害者は、生きる希望を見出しました。しかし、薬害エイズは、この裁判で本当に解決したのでしょうか。裁判の和解後、繰り返される薬害に被害者は、どう感じているのか。また、支援者として訴訟の支援活動に関った人々は、今の現状をどう感じているのか。薬害エイズの裁判の和解までを記録したビデオを薬害エイズ被害者と一緒に見ながら、ともに考えたいと思います。

ながれ：最初に薬害エイズのビデオ（薬害エイズとはなにか、また、裁判の和解までの支援活動等の内容のビデオ）を参加者と見てから、薬害エイズ被害者本人に裁判の和解後、いままでの自分と周りの現状等を話してもらおう。後半は参加者とともに意見交換。参加者からは、最近、薬害エイズをはじめエイズも耳になくなったがエイズが日本で増えている現状に疑問を抱いていると発言があり、薬害エイズやエイズに関する教育や市民の動きについて話し合った。薬害エイズを考える山の手の会では、薬害エイズ被害者本人とこの問題に関心を持つ仲間と同じ社会に住む当事者としてざっくばらんに意見交換している。今回の議論でも被害者本人、医療従事者や様々な立場の参加者から意見交換が出来た。

参加人数：16名

連絡先：

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-26-12コーポ藤井103

TEL&FAX：03-3364-3733

E-mail: uy53814@blue.b-city.net

URL: <http://yamanote.hp.infoseek.co.jp>

□AIDS、日本への提案

アビー・ニコラスフリュー

主催：NPO AIDSネットワーク横浜

当団体は、HIV感染者・エイズ患者の方々のサポートとAIDSに対する社会の知識・理解を深めるために活動を行うことを目的に、1993年2月に発足したボランティア団体です。

内容：

講師は94年世界エイズ会議の年に来日、その時から英語圏の人間として、キャッチフレーズに英語が使われているのに非常に違和感をもっている。（ノーモア・エイズ、ストップエイズなど）自国語で表現していないということは、日本人にとって、日本のことではなく他人ごとであるという証明である。アメリカの教会で接した友人・知己・また肉親のエイズ患者を通しての経験談や個人でも出来る支援の例として、日本で行っていたクリスマスパーティの話がされた。

困った人がいれば、コミュニティで支えるパーティが日常化している米国と日本の実情は大きな差が感じられたが、事にあたってつい肩肘を張ってしまう我々にもっと気軽にやればいいのかという教訓が得られた。アンケートの一端から長い経験から紡ぎ出された話は説得力があって面白かった。文化や価値観の違いなど、様々な点がとても興味深く感じられた。

連絡先：

〒161-0033 東京都新宿区下落合2-4-10

TEL：03-5988-0560 E-mail: office@tokyo.msf.org

日本のHIV/AIDS問題
キャッチフレーズは
なぜ英語なの？



□ マスコミから見たエイズの現状 ～エイズ報道の現状と課題～

主催：森谷直子（読売新聞）

内容：

2005年5月に連載された「HIVとともに」（まさか夫が・・・自分も感染、上司に病名告白気が楽に、感染しても子ども欲しい、進まぬ陽性者の早期受診、等）を書いた立場から、HIV/AIDSを取材、報道する時の課題について率直に、反省を込めて紹介した。特に当事者の現状を取材し紹介することへの思いと現実の壁の厚さは今後HIV/AIDSへの理解を得る上で重要な課題であると思われた。

来場者感想：

実際報道は増えているし（過去のようなセンセーショナルな露出が目立たなくなった）、水面下でHIV/AIDSを我がこととして考え、悩んでいる人は増えています。みなが当事者であり、検査で（一）を告知された瞬間に、「もう関係ない」という人は誰もいないはず。温度差が大きくなり、メディアが市民にとって「他人事」のたれ流しの場とならぬよう、チャンネルを開いてくださっている森谷さんの存在は貴重です。今後とも応援しております（30代）。エイズ報道の難しさがわかった。講演後のフリーディスカッションがたいへん有意義だった。やはり予防啓発のためには陽性者の現状がわからなければ意味がないような気がします（40代、保健医療関係）。まずは記事そのものを配るべきではなかったでしょうか（40代）。

連絡先：

読売新聞生活情報部 森谷直子 〒100-8055東京都千代田区大手町1-7-1
TEL：（代表）03-3242-1111

□ 自由を目指して～私たちにできること～

主催：ポラリスプロジェクト・ジャパン

ポラリスプロジェクトジャパンは、人身売買という「現代の奴隷制」問題に取り組むNGOです。人身売買行為に対する人権擁護活動や地域レベルでの監視や啓発活動と共に、法執行機関と連携し合い、一刻も早い被害者の救済のために活動しています。

内容：

「自由を目指して～人身売買、今私達にできること～」と題し、参加者とともに考えるワークショップを行いました。前半は、ビデオプレゼンテーションにより映像とともに人身売買の現状を伝え、講義ではさらに詳しく人身売買の定義や日本のイニシアチブを解説しました。また、後半ではクイズや参加者のディスカッションにより一人ひとりに身近な問題としてこの問題を考えてもらう良いきっかけになったのではないかと思います。「人身売買」＝「遠い国の問題」ではなく、今まさにこの日本で、この街でおこっている「自分達の問題」なんだと意識してもらえればと思いました。AIDS文化フォーラム in 横浜は、ポラリスプロジェクトジャパンが、日本で市民と共に人身売買問題を考える第一歩となったと思います。

連絡先：

ポラリスプロジェクト・ジャパン
東京中央郵便局 私書箱716号
TEL： 050-3496-7615 FAX： 020-4669-6933
E-mail： info@PolarisProject.jp URL： http://www.PolarisProject.jp



「人身売買」って
「遠い国」の問題？

NPO/NGOの取り組み・国際的視点から

写真を撮ることの
最終的な目的は
あなたたちを
助けること・・・



□ 後藤勝スライド上映会： 「絶望の中のほほえみ～カンボジアのエイズ病棟から」

主催：後藤勝・由美（Reminders Project）

Reminders Project（「思い起こさせる（或いは気付かせる）人・物・事の意」）は、2000年に発足したプロジェクト。独自の視点を持って取材活動を続けるフリーランスフォトジャーナリストによって、「世界で何が起きているのか」を伝えていくことが目的。「『広く伝える』『様々な視点を求める』を基本」とし、発表の拠点やスタイル、写真家の国籍、キャリアなどにこだわらず、活動を続けている。

内容：

<前半>

後藤勝は、カンボジアのエイズ病棟において患者と向き合った日々を撮り、対話を重ね、痛みを共有し、厳しい状況下にもいのちを見つめるメッセージをスライドを通じて訴えた。

「初めてティーと出会ったのは2001年3月だった。・・・

『ティーはね、このまえ死んじゃったのよ』・・・何も言えなかった。

『写真を撮ることの最終的な目的はあなたたちを助けること』と言った僕の言葉を、ティーは最後まで信じていた。くやしかった。・・・病魔と闘いながら、必死に生きていたティー。絶望の時にほほえむことができる人こそ本当に優しい人なのだと、僕はティーから学んだ。懸命に生きた彼女の姿はいつまでも僕の脳裏に残る。エイズと闘い続けたティーにこの本を捧げる」（「絶望の中のほほえみ」（めこん）前書きから）

<後半>

スライドトーク「in Sight Out!!-アチェの子どもたちとの写真プロジェクト」後藤勝は、04年12月26日のスマトラ沖地震津波災害の被災となったインドネシア・アチェとタイで子どもたちが参加するメディアプロジェクト“in Sight Out”を立ち上げ、子どもたちが「写真」を撮ることを通して、自らのトラウマ、深い悲しみとストレスと向き合う試みを続けている。ただ被写体としての子どもたちではなく、「撮る」ことを通して子どもたちとの対話をし、子どもたちと共にトラウマを乗り越えていく取り組みをスライドで紹介した。

連絡先：

Reminders Project 後藤由美

Website:<http://reminders-project.org>

E-mail:info@reminders-project.org

□ 世界がもし100人の村だったら… HIV/AIDSバージョン

主催：横浜YMCA ACT

内容：

「世界がもし100人の村だったら…HIV/AIDSバージョン」は、HIV/AIDS患者・感染者を「世界がもし100人村だったら…」のワークショップのように伝えることができないかと？！考え出したものです。「世界がもし100人の村だったら…」のワークショップを交えながら、HIV/AIDSの基礎知識、世界のHIV/AIDS患者・感染者数等の数字をわかり易く伝え、体感的にとらえ、原因を考え、世界の現状理解を深めてもらえるワークショップです。

連絡先：

横浜YMCA ACT

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1

TEL： 045-316-1881/FAX： 045-314-6805

わかりやすく
体感的に
世界のHIV/AIDSを
理解しよう！

コラム：「Global CitizenとHIV/AIDS」

「世界のHIV/AIDSの現状（UNAIDS/WHOの統計から）」によると、2004年末現在で以下のデータが出ています。

- ・ HIV感染者数3,940万人（3,590-4,430万人）
- ・ 2004年新規HIV感染者数490万人（430-640万人）、
- ・ 2004年AIDSによる死亡者数310万人（280-350万人）

（ ）は、推計値であり、推計値の範囲に実数が存在する、とされています。

しかしながら、本当の実態はなかなか見えないのが実際のところで、日々状況は刻々と変わり、エイズを取り巻く環境はより厳しく深刻化していると言っても過言ではありません。データではすべてを表せませんが、「命が危機にさらされているというSOS」がそこにあります。

2003年世界エイズデーでのエイズ撲滅コンサート（南ア）でマンデラ元大統領は、「私はかつて『46664』という囚人番号で呼ばれていた。私は単にナンバー（番号）だった。世界中のどの紛争や戦争よりも多くの人々がエイズによって亡くなっている。人は番号や数字ではない。命ある存在である。そのことから私たちは目を背けてはいけない」と語り、鋭く私たちが生きている世界と国際社会を訴えました。

2004年7月のタイで開催された第15回国際エイズ会議のテーマは、「ACCESS for ALL」—万人へのアクセス—でした。しかしそれとはほど遠い現実があります。グローバル化の一側面として、様々な格差が拡大し、貧困という構造的な暴力によって人々が生きる権利を奪われ、明日が見えない状況にあります。一方では、先進国の一員ではある日本では十代・二十代を中心に唯一感染率が高まっているとのデータがあり、危機は足下に迫っているにもかかわらず、常にこのことは「対岸の火事」として受け止めている私たち日本の社会があります。

今一度「命の問題」として、またグローバル（地球規模の）・ローカル（地域の）・ボーダーレス（国境を含めすべての境界線を越えた）視点からHIV/AIDSの問題を捉えたいと思います。「共に生きる社会（世界）」の創造に向けて、NGO/NPOや各団体や組織を超えた協働、即ちグローバルシティズン（地球市民）としての考え方や行動が求められますし、その発信源やつながる場がAIDS文化フォーラム in 横浜の使命であると理解しています。

（AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会）



あなたは
あなたであるだけで
素晴らしい

□ 南アフリカ共和国でエイズとともに生きる

主催：小山えり子 ニバルレキレ事務局

南アフリカエイズ孤児絵画写真展を各地で開催し、南アフリカのHIVエイズの現状を伝えつつ、現地での支援活動を行なっています。

内容：

ニバルレキレとは現地のズールー語で「あなたはあなたであるだけで素晴らしい」という意。南アフリカ共和国にある聖フランシスケアセンターのエイズ孤児たちの絵画と、写真家ビクター・マトムの写真による作品展を、2004年4月から全国各地で巡回開催し続けています。ニバルレキレは、自分自身を大切にすると、HIV感染は決して人の存在価値を損なうものではないことをメッセージとしています。エイズ孤児の命の輝きだけでなく、約530万人という世界一の感染者数を抱える南アフリカ共和国の現状と課題、かつてのアパルトヘイトがどのような影響を現在も及ぼしているか、治療を受ける権利を求めるPLWHAの活動についても展示会では伝えています。また会場で集まった支援金を元に、現地においてPLWHAや遺族・エイズ孤児の支援を行なっています。展示会ほどなたでも主催者になることができます。作品は無料で貸し出していますので、ぜひニバルレキレ展を勉強会や授業、皆さんの参加されている団体などで、HIVエイズを理解やアフリカへの理解を深めるために活用していただきたいと思います。レッドリボンのビーズバザーの販売も行なっていますので、ぜひ御連絡ください。

連絡先：

ニバルレキレ事務局
〒110-0015 台東区東上野1-20-6丸幸ビル2F (アフリカ日本協議会内)
TEL：03-3834-6902 E-mail：ngibalulekile@freeml.com

□ ジンバブエ・日本赤十字社HIVエイズ事業

主催：日本赤十字社医療センター国際医療救援部

日本赤十字社における国際医療救援派遣要員の養成・派遣・支援と、主に国外におけるHIV/AIDSの支援を行っています。

内容：

日本赤十字社は国際赤十字の一員として、平成15年度より3ヶ年計画でジンバブエ赤十字社のHIV/AIDS事業を支援している。1名の日赤事務職員が常駐し、6ヶ月を任期として2～3名の研修要員を交代で派遣し、各自の職種に応じた支援プログラムを作成し支援してきた。昨年は薬剤師が薬品の保管、管理、配給、供給等の支援を報告した。今回は昨年5月から11月まで支援してきた看護師と今年1月から7月まで支援してきた看護師、助産師にそれぞれの職種の立場に立った支援プログラムを作成し支援してきたので発表した。ジンバブエ赤十字社のHIV/AIDSの支援活動を3つのポイントに絞って実施した。1番目は在宅介護支援：ボランティアたちの家庭訪問、感染者や患者の自助グループの支援、感染者や患者の心理サポートなど、2番目は予防教育：エイズに関する勉強会やパンフレット、ポスター等の作成など、3番目はエイズ孤児に対する支援：エイズ孤児や脆弱な子供たちへの学費のサポート、職能訓練の研修、心理的サポートなど、今後もこれらの3つのポイントを中心に支援していく方針である。

連絡先：

日本赤十字社医療センター 国際医療救援部 救援課
〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22
TEL：03-3400-1311 (内線2160) FAX：03-3400-0232 E-mail：



□ 「子どもたちからのSOS ～北タイにおける貧困への取り組み」

主催：横浜YMCA

横浜YMCAがタイ・バンコクYMCAと協働で行っている「プロテクトアチャイルド」の取り組みとタイの貧困にあえぐ地域での諸問題に関する現場レポート

発表：

長澤勲、大江浩、関翔平・米重克洋(第11回国際ボランティアinタイ参加者)

内容：

横浜YMCAは、長くバンコクYMCAと協働で、

- ①バンコクのスラムコミュニティの子どもたちの教育
- ②北タイ（パヤオ）で児童売買などハイリスクを負った子どもたちを保護する自立支援施設（約60名）を運営
- ③バンコク郊外のエイズ孤児ケアセンター（約40名）

を通して、タイ各地で様々な危機下にある子どもたちへの支援を行っている。

財政援助、長期のボランティア派遣、スタディツアー・ワークキャンプ（国際ボランティアinタイ）など多面的な支援プロジェクトを行っているが、今回は「貧困（という構造的な暴力）、そして子どもたちのSOS」にフォーカスを当てて、取り組みに関する現場レポートを行った。

以下はそのポイントである。

- ・「プロテクトアチャイルド」の背景・理念・事業内容
- ・児童売買など構造的な貧困構造
- ・HIV/AIDS、日本との直接・間接のつながり
- ・ワークキャンプに参加した若者（高校生）の体験を通しての学び・気づき
- ・子どもたち（HIV陽性の子どもたちもいる）が置かれている家庭や地域環境に関するルポ取材

遑れば、戦争という最大の暴力によって生み出された多数の定住難民、貧困などにより子どもたちのいのちが犠牲となり、搾取されている現実とそのことに取り組む地道な開発プログラムをスライドに基づいて紹介した。

連絡先：

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA国際・地域事業 大江・郡司

TEL：045-662-3721, FAX：045-651-0169

E-mail:kokusai@yokohama-ymca.or.jp URL：http://www.yokohamaymca.org



多くの人に知ってほしい
いのちを守り、安全な生
活を取り戻すための
地道な取り組み

コラム「社会問題」

HIV/AIDSの抱える大きな問題の1つは『関心の低下』です。

2005年は神戸会議もあってHIV/AIDSのことに注目が集まるかと思いきや、残念ながら神戸会議の様子をメディアから感じることはほとんどできませんでした。では、AIDS文化フォーラム in 横浜はといえば、毎年開催していることにより、目新しさが薄らいでいくのは仕方ないことですが、年々取材は減少し、今年はずいに期間中の取材は1件、しかも取材のみで紹介はされず、なんとも寂しいものでした。社会の関心を高めるにはマスコミの啓発も不可欠ですが、フォーラムに参加したひとり一人が「フォーラムに参加したよ」「フォーラムでこんなことを感じた」と、伝えていくことこそ、社会を動かす最初の一歩かもしれません。今年のフォーラムのこと、何人の人に話しましたか？

(AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会)

若者の視点から

□ すごろく de 性教育

主催：HAATAS

20歳代を中心に、同年代の集まるイベントでエイズを身近なものとして考えられるように予防啓発活動を行っている。

内容：

若い世代が主体になってこそでき、楽しめるエイズ啓発活動を目指してすごろくを制作した。ルールは、6つのチームに分かれて停まったマスごとにクイズやゲームに挑戦してもらい、獲得するポイントを競うというもの。「蚊にさされるとHIVに感染する可能性がある？」といったHIV/AIDS基礎知識を問うような単純なYES/NOクイズから、「お兄ちゃんのエロ本を見つけたらどうする？」というような、よく考え、グループ内で話し合ってもらう質問まで幅広く用意した。チーム対抗にすることで、初対面同士でもコミュニケーションがとりやすくなるように工夫し、また、教科書を見ればわかるような知識を教えるだけではなく、エイズや性に対する自分の考えを人に話し、心をオープンにするための練習の場ということ意識してワークショップを組み立てた。クイズやゲームをバランスよく取り入れ、話の深刻さ・気軽さにメリハリをつけることで楽しみながらエイズについて考えてもらうことができ、当日は約25名の参加があったのだが、参加者からも、大人から子どもまで楽しめるワークショップだという感想がきかれた。また、「楽しかった」、「小学生の性教育に応用できる」など好評も得た。

連絡先：

特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会 担当 西山
〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル5F
TEL：03-5807-7581 FAX：03-3837-2151 E-mail info@share.or.jp



知識を教えるだけでなく
自分の心をオープンに
する練習を

コラム インターンシップの学生さんを受け入れて

今年もインターンシップの学生さんが健康増進課エイズ・感染症対策班の希望をしてくださり、10日間ご一緒させていただきました。昨年も今年もエイズについては、希望者が多く、関心を持ってくれる若者がいることをうれしく思っています。運営委員の大学生も2名おり、仕事という視点と若者のボランティアな活動という視点と両方からのもの見方ができたのではないかと考えています。ボランティアオリエンテーションから実習を開始して、一連の流れを体験していただいた中での感想をいただきました。

県の担当者としては、2回目のAIDS文化フォーラム in 横浜を体験しました。昨年の大盛況によりホールの使用等皆さんには窮屈な思いをさせてしまったことが残念に思っています。しかし教育現場との関係が難しい中で、教育関係者の方々にも多くのプログラムを持っていただけたことに感謝しております。今後の未来を担う子ども達のために、がんばっている方々の情熱に触れることができたことが、何より元気をもらうことができました。

これからも、市民の力を上手に支えていきたいと思っております。今後もインターンシップの学生さん共々どうぞよろしく願います。

(AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会)

□ 「7th ICAAP ユースフォーラム報告 ～ユースの力を社会へ～」

主催：7th ICAAPユースフォーラム実行委員会

7th ICAAPの公式プログラムであるユースフォーラムの企画・運営。

内容：

前半は、ユースフォーラムの概要と3つのプログラムの紹介と報告、全体の成果と課題を挙げ、後半は、フロアの参加者を交えて前半部の課題についてディスカッションを行ないました。特に後半のディスカッション部は、今後のユースの取り組みに対し有益な意見を頂き、大変良い機会にめぐまれたと実感いたしました。論点として、

- ①ピアの必要性と課題
- ②日本のエイズ対策におけるユースの現状と課題
- ③ユース活動家に必要なスキルとは
- ④ユースとして社会に発言できる組織の必要性

を挙げました。どの論点でも、実行委員とフロアの参加者の本音がぶつけられ、ICAAP後の取り組みについても話し合われました。「熱意が一番大事」と何度も励まして頂き、ユースとそれ以外の世代の方々との協力が重要であると再認識したと同時に、ユースが主体性を持って、社会へと声をあげていくための体制を整えていく必要性が示唆されました。

アンケートからも、「来年の発表を期待する」、「持続的な活動を」と意見を頂きました。

連絡先：

E-mail: icaap_youth_2005inkobe@hotmail.co.jp

URL : <http://www.geocities.jp/bkyts392/top.htm>

□ 「エイズ・チャットルーム」

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会 中澤まどか&蒔野絵里子

私たちは若い視点からAIDSについて考えるための初の企画を推進するために結成しました。

内容：

「運営委員会の紹介」・「AIDS文化フォーラム in 横浜の歩み」や1階の展示ブースで展示してあるレジメ・プリントを展示しました。また軽食や飲み物も設置しました。これらは訪れた方に今まで以上に文化フォーラムを身近に感じてもらえるように、またチャットの話題になるためにという思いで設置しました。そて、本日このチャット・ルームに立ち寄った感想などを記入してもらおうとコメント・ノートの設置しました。他には講義や展示ブースを歩きすぎて疲れた方に「腕・足のマッサージ10分」を行いました。そしてチャットを行う席を二箇所設け自由にAIDSに関することなどを話し合いました。途中、講演を終えられた岩室先生や吉永先生などのBIGゲストが来て下さりチャットが盛り上がりました。今回のチャットルームでは「いま行っているボランティア活動についての意見交換」や「ボランティアに参加したいのですが、どうすればやれますか？」などの情報交換の場にもなりました。まだまだ初の試みのため改善点は多くありますが、様々な話ができただけで有意義な時間であったと思われまます。

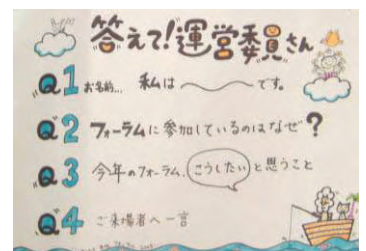
連絡先：

AIDS文化フォーラム in 横浜事務局（横浜YMCA内）

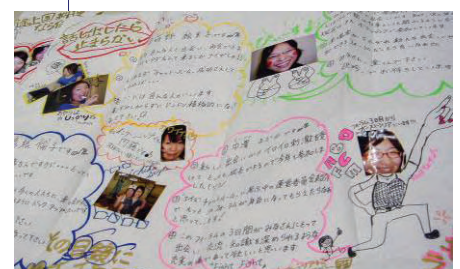
TEL : 045-662-3721 FAX : 045-651-0169



ユースが主体性を
もって声を
あげていける
社会へ・・・



今まで以上に
文化フォーラムを
身近に感じて
もらえるように



HIV/AIDSの現状

学会にむけて
大きな流れを
みなで創って
行きましょう

□ Living Together ネットワークを広げ真の連携を創ろう 第20回日本エイズ学会がめざすもの

主催：池上千寿子

特定非営利活動法人ふれいす東京 代表
第20回日本エイズ学会学術集会・総会 会長

内容：

2006年の日本エイズ学会・学術集会は久しぶりに東京で行われます。しかもその会長に選ばれたのが20年目にしてはじめての「男性でない、医師でない、教授でない」池上千寿子ということで、そのテーマを「Living Together ネットワークを広げ真の連携を創ろう」としました。エイズ学会というと医療専門家の集まりという印象かもしれませんが、それはちがいます。科学とコミュニティをつなぎ、予防とケアをつなぎ、行政と民間をつなぎ、無関心のふきあれるメディアや一般社会に今こそエイズととりくむことの意味、HIV陽性者は対策のパートナーであることに気づいてもらいたい。そんな願いをこめたテーマです。ふれいす東京の活動や研究の歩みからひきだされたこのテーマについて語りあいました。

「学会のご案内」では参加者は少なからうと思いましたが会場一杯にきてくださり、しかも学会未経験の方たちが熱心に聞いてくださり「学会にむけて大きな流れをみなで創っていきましょう！」というメッセージを学生さんからいただきました。2006年度の学会は11月30日から12月2日までです。来年のフォーラムでは具体的なプログラムをお知らせします。

連絡先：

特定非営利活動法人ふれいす東京 20回学会担当 吉田
E-mail : research@ptokyo.com

□ エイズ最新治療とその課題

主催：上田敦久 内科医師

横浜市立大学付属病院はエイズ治療拠点病院として15年以上にわたりHIV感染症、エイズ患者診療に従事。感染症内科のみならず歯科、精神科など他科との連携、さらに専門知識を有する看護体制、カウンセラー、ソーシャルワーカーとのチーム医療体制下にメンタルケアも含め集約的な医療を行なっている。

内容：

HIV感染症に関して、感染機序やそれぞれ病期における臨床的な症状、検査所見を解説。抗レトロウイルス療法をどのような時期に開始すべきか、また最近の治療法の動向を紹介。最後に実際に症例を提示しながら、カリニ肺炎や結核といったエイズ症例の治療経験を提示。内容は若干医療従事者向けであったが、学生さんや関連団体の方からも実際の症例を通じて診療の現場を実感できたとの感想もいただきました。

連絡先：

上田敦久 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学病院感染症内科
TEL : 045-787-2800



□ 「HIV/AIDSと被爆問題をどう伝えていくか」

主催：ユニセフ支援市民グループ ふれきしぶる

子どもの権利条約に基づき活動をしているユニセフ。その支援をしているグループです。募金活動や出前授業など「できることを、できるときに、できるだけ」の理念でflexibleに活動しています。KIDS for KIDS (Know Imagine Do Something for KIDS)は合い言葉です。国内においての途上国の子ども支援は想像力が原動力、しかし「かわいそう」ではなく「みんなで幸せになろうよ！」という意識で募金活動や出前授業などに取り組んでいます。

内容：

ファシリテーターに長崎ウェスレヤン大学教授、森田明彦氏を迎え、初めての参加者でも終盤には皆がHIV/AIDSの問題をどう伝えるかというロールプレイができるようになりました。森田氏は子どもの権利活動家で、子どもの権利を熟知し、大人の誰にも残っている「子どもらしい純粋さ」を生かし活動している異色の大学教授です。アイスブレーキングである程度心を解放し、参加者間でワークショップ。小学生時代の最も楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったことなどを小グループで披露し合い、シェアした後、「心の引き出しにはこれまで体験したいろいろな感覚や感情がたくさんしまっており、大切なことを相手に伝えるとき、その心の引き出しを開けてその時の感情を甦らせることによって、より深く相手に伝えることができます。」と、HIV感染を伝えるロールプレイングを行いました。参加者からは「HIV感染の告知を自分の身になって考えることができた」などの感想を頂きました。

連絡先：

横浜市金沢区釜谷西3-35-6 TEL： 045-785-9510

E-mail： flexible@mail.goo.ne.jp

□ 「HIVスクリーニング検査体制の現状と課題 ～ガイドラインの第2版作成の経過から～」

主催：今井光信（神奈川県衛生研究所 所長）

内容：

即日検査の実施が増える中、より具体的に実際の問題点に答える内容になったガイドライン第2版の作成の経過から、即日検査の実際、問題点、改良すべき点などを解説しました。HIV相談・検査については、「HIV相談・検査マップ」というサイトが詳しいので、そちらをご参考ください。全国の相談・検査場所の詳細を知ることができます。また、ガイドライン第2版もPDFファイルで手に入れることができます。

連絡先：

神奈川県衛生研究所

TEL： 0467-83-4400（代表） FAX： 0467-83-4457

E-mail： eiken.1540.kikakujoyouhou@pref.kanagawa.jp

心の引き出しをあけて
感情を蘇らせる
ロールプレイ



STD教育 「おどせば済む」の？



□ 性感染症の最新事情

主催：今井理恵・AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

今井氏は勤務医だけでなく、保健所・学校での講演相談などにも協力している行動的医師。著書には『“ほっ”とする生理痛の本』（築地書館）『安心して治す子宮筋腫』（池田書店）川崎共同病院勤務時代、地域で在日韓国・朝鮮人の患者さん達との交流をとおして出版された『たのしくおいしい朝鮮料理』（わらび書房）等

内容：

今年も、フォーラム運営委員会では性感染症についての専門科医を講師として迎える企画を実施した。講師は、昨年引き続き産婦人科医師今井理恵氏。会場は開場とともに満席。関心の高さが伺われた。資料用プリントを配布。法律も含めて「STD（性感染症）とは・・・」というテーマからはじまり、次に、よくみられる7つの病気について、感染経路、症状、検査方法、治療法などについて情報提供をして頂いた。特に、トピックスとしてクラミジア治療にジスロマック（抗生物質）を使用が紹介された。さらに、どのような時にどのようにすればよいのかを、患者さんの立場にたった具体的説明があった。最後に「おどかせば済む」STD教育についての指摘には、臨床の現場にたつ医師ならではの主張、来場者も司会者も納得。会場からは、病気についての質問から、性教育についての意見まで、次々と活発な発言があった。それに丁寧に対応して下さり、皆感激。感想には、早くも来年の開催を望む多くの声が、主催者としては、会場が狭すぎた反省を踏まえて、来年の準備中。

連絡先：

神奈川県勤労者医療生活協同組合 港町診療所：横浜市神奈川区金港町7-6
TEL： 045-453-3673 婦人科は要予約

コラム エイズの現状

1994年にAIDS文化フォーラム in 横浜が始まった当時はHIV感染=AIDS死と考えられていたのが、その頃と比較すると使える薬の数は各段に増え、AIDSを発症する前に感染が判明すれば治療をきちんとすることで今までどおりの生活ができ、結婚することや子どもを授かることもできるようになりました。障害認定制度も発足し、診療する医療機関も増え、十分とは言えないものの、感染している人たちが安心して医療が受けられる環境が整備されつつあります。

医療面の進歩と環境整備が進む一方で予防面での取り組みはどうでしょうか。平成16年1年間でHIV感染あるいはAIDS発症が新たに判明した人は1000人を超えました。1994年にAIDS文化フォーラム in 横浜が始まった年は400人強だったことを考えるとここ10年余で倍以上になっており、日本ではHIV/AIDSはまだ増え続けているといわざるを得ません。確かに近年は同性間性的接触によるHIV感染者・AIDS患者の急増についてはより積極的な啓発活動が望まれます。しかし、神奈川県や横浜市に限定して感染者数の増加を検証すると、同性間性的接触を含めてもここ数年は横ばい傾向にあります。確かに東京都が南新宿検査室を開設し、そこで神奈川県在住者が受診している可能性も否定できませんが国際会議を契機に神奈川では全国に先駆けてAIDS文化フォーラム in 横浜を開催し、HIV/AIDS予防に対して積極的に取り組んできた成果とも考えられます。また、全国的に見れば、異性間性的接触によるAIDS患者はここ5～6年横ばい傾向にあり、少なくとも日本では異性間での感染爆発は抑制されていると思われます。

このようにAIDS文化フォーラム in 横浜と平行して行われてきた予防啓発活動が一定の成果を挙げている事実を正しく評価し、この取り組みを継続することが次代を担う若者たちにできる大人の責任ではないでしょうか。

(AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会)

□ 「まだまだ終わりになき夏 (神戸会議報告)」

主催：AIDS&Society研究会議

HIV/エイズと闘う様々な分野の関係者によって構成され、わが国のHIV/エイズの流行の現状分析とエイズ政策への提言などを旨とする特定非営利法人。第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議組織委員会神戸で開催された同会議の実施担当組織。NGO、医師、研究者らで構成。

内容：

2005年7月1日から5日まで、神戸で開かれた第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議（神戸会議）について、会議の組織委員として運営に深く関与した（司会を含め）7人のスピーカーにより、準備の舞台裏の話も交え、報告が行われた。

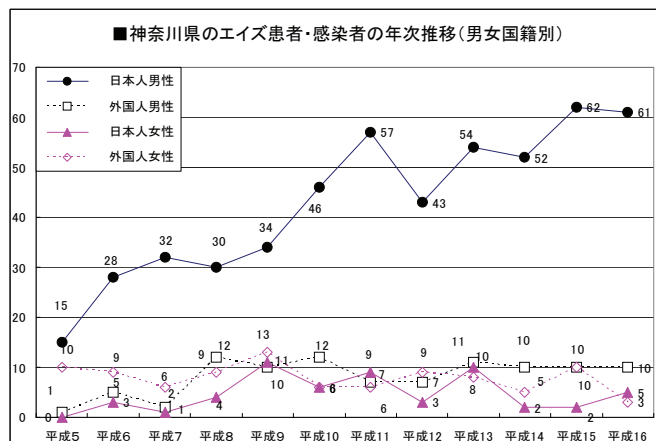
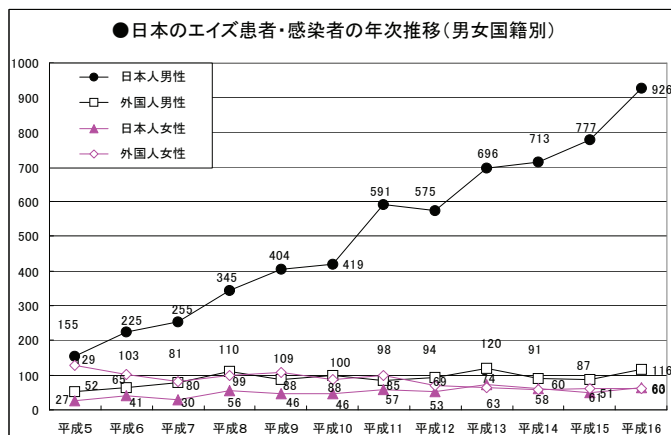
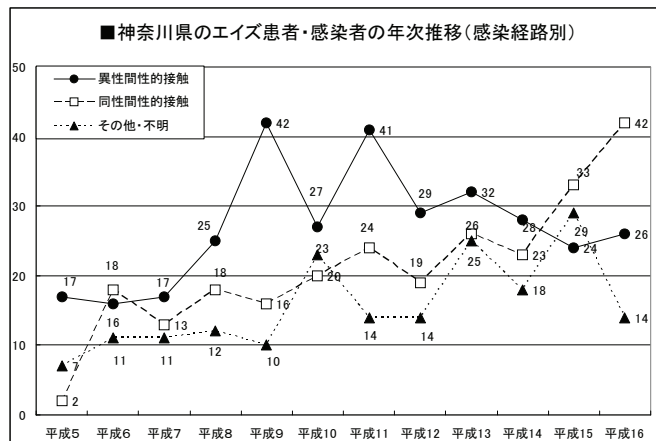
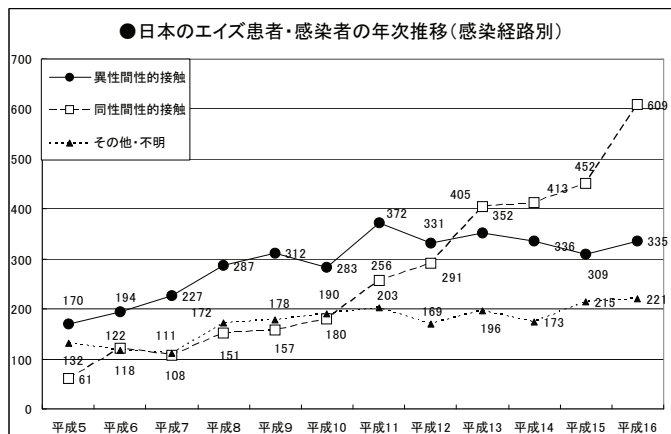
組織委事務局次長の樽井正義氏（慶応大学教授）からは、会議全体の総括をもとに、アジアおよび日本のHIV/エイズとの闘いで何がいま、大きな課題なのかが示された。また、パフォーマンス・アーティストでもある文化プログラム副委員長の桃河モモコ氏は会場外の芸術イベントkavcaap、クラブイベントinsertについて報告した。

神戸会議の開会式で総合司会を担当した長谷川博史（JaNP+代表）は組織委のPWA委員長でもあり、HIV陽性者の視点から会議のキーワード「ギャップ」がさまざまなかたちで日本にもアジアにも存在していることを指摘して、そのギャップをいかに埋めていくかが大きな課題であることを強調した。同じく総合司会の池上千寿子氏（ぶれいす東京代表）は2006年12月に東京で開かれる第20回日本エイズ学会の会長に予定されており、1994年の第10回エイズ国際会議、そして今回の神戸会議の成果と反省をもとに日本の課題に取り組むことの必要性を訴え、来年の日本エイズ学会への幅広い関係者の参加を呼びかけた。

第10回エイズ国際会議の横浜開催を機に生まれたAIDS文化フォーラム in 横浜で、神戸会議のフォローアップの貴重な機会を持ったことは、日本のHIV/エイズ対策を立て直していくうえでも意義あることであった。



◆神奈川県ではHIV/AIDSが少し横ばい？



HIV/AIDSと共に生きる

感染者同士が
交流できる環境を

□ 地域に根ざす陽性者支援

主催：PHILIP (フィリップ=Project of Health Information & Life Innovation for PLWHA)

八王子・町田・相模原地域に誕生した、HIV陽性者による陽性者支援を行うCBO (Community Based Organization)。コンテンツ配信とニュース発行、講師派遣活動などを行っています。

内容：

日本のHIV陽性者のおかれた状況、PHILIPの活動ビジョン、コア活動の紹介、陽性者専用のコンテンツ紹介を中心に行った。

約20名の参加者を得たが、保健医療関係者やプレス関係者など専門家の参加が多く、他府県からの参加も目立った。「地域活動をしている患者団体があることを初めて知った」(30代・保健医療関係者)「CBOとして情報提供主体・当事者ケア団体としてとてもスリムで効果的であると思えた」(大阪・20代・NGO関係者)「自分達の問題として立ち上がり活動しているのが素晴らしい。地域格差は色々なところを感じている。地方でも感染者増加があるが、なかなか当事者同士の交流ができない。今後に期待したい」(新潟・50代・保健医療関係者)「日本のHIV対策の遅れを感じる。このような地域レベルでの活動を活発化させる必要を感じた」(20代・山梨・学生)など、概ね好評だった。

早速、メディア関係者や保健所関係の方からオファーがあり、当方のコンセプトとビジョンが好意的に受け入れられたと感じた。

現在連携医療機関や検査機関を増やしており、これらの連携ができた段階から徐々に行政関係へ歩を進める予定である。

連絡先：

〒194-0298 東京都町田市相模原町4342法政大学地域研究センター内
インキュベーション・オフィス601号「PHILIP」

E-mail : info@philip.jp mobile : 080-3015-9924

URL : <http://www.philip.jp>



□LAP Positive TALKの取り組み

主催：ライフ・エイズ・プロジェクト（LAP）

HIV感染者・エイズ患者への社会的支援活動を行なう非営利団体（NGO/NPO）として1993年設立。

内容：

当事者同士が、お互いの思いや体験を分かちあったり、話しあったり、自分の話にしっかりと耳を傾けてもらう場として無料・匿名で開催されているHIV陽性者限定のグループミーティング「LAP Positive TALK」の取り組みについて紹介しました。ファシリテーターはLAP代表の清水が担当し、参加者とのディスカッション、意見交換を折り返みながら行いました。

来場者からは、

「いろいろ刺激的な話がきけて良かったと思います」（40代）、
 「少人数で緊張しましたが、参加したカイがすごくありました」（20代・学生）
 「アットホームな話し合いが多くをもたらすこともある。この快適さに気づかないPositiveも多いだろう」（30代・NGO/NPO）
 「若者が多く、あまり外で口にしない言葉も必要に応じて会話に持ち込み、ざっくばらんであった」（20代・その他）
 等の感想が寄せられました。

連絡先：

〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号
 TEL：03-5685-9716 FAX：03-5685-9703 URL：<http://www.lap.jp/>

□PWA限定：治療と生活—自立支援法時代に

主催：PHILIP(フィリップ=Project of Health Information & Life Innovation for PLWHA)

八王子・町田・相模原地域に誕生した、HIV陽性者による陽性者支援を行うCBO（Community Based Organization）。コンテンツ配信とニュース発行、講師派遣活動などを行っています。

内容：

PLWHAの「治療と生活のアウトライン作り」に向けた学習プログラム、今回は陽性知から1年以内のニューカマー向けの学習会プログラムの試行を前半に、中盤に「自立支援法」制定後にどこがどう変わるのか、後半では、PHILIPの陽性者専用コンテンツの中身について紹介した。

「自立支援法についての最新情報を知ることができた。具体的な話を得ることができず困っていたので、助かった」（東京・40代）という感想が寄せられた一方で、「PWAに限定する必要が無い内容だと思った。ある程度動けるか治療のできている人が来れるので、もう少し陽性者同士のミーティング形式がよかった」（20代）という指摘もあり、今後の課題をいただいた。PWA限定とするかどうか、というソースの理解にはまだ差があるが、なぜ限定が必要か、限定するならもっと突っ込んだ内容も期待されている、ということを確認した。今回のミーティングでは今一歩深めることが出来なかった。もう少し柔軟な運営が出来るよう、臨機応変な準備を行う必要があった。反省材料である。

参加者は4名であったが、まだ活動開始間もないCBOの学習会でこの数は成功であったと考える。

連絡先：

〒194-0298 東京都町田市相原町4342法政大学地域研究センター内
 インキュベーション・オフィス601号「PHILIP」
 E-mail：info@philip.jp mobile：080-3015-9924
 URL：<http://www.philip.jp>



アットホームな
 話し合いが
 多くをもたらす
 こともある

□ *Positive ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! with HIV*

主催：パトリック&紳也

内容：

パトリックはHIVに感染したのが1988年。とても21世紀を見ることはないと思っていた。そのため自分がしたいことは何か、今できることは何かを考え一日一日を大切に生きてきたら何と感染してから17年経っていた。パトは早くから自らがHIVに感染していることをカミングアウトし、1994年にあるラジオ番組で友人でもあり、今の主治医でもある岩室紳也と出会った。主治医から見ればパトがこんなに長生きができていながらも、耐性ウイルスができないよう、毎日マジメに、忘れずに薬を飲んでいるから。パト曰く「1万回以上薬を飲んだ計算になるけど一回も飲み忘れていないよ」と。しかし、現実にはパトの体の中にはHIVが住み着いている。このこととどう向き合うのか、そのパトとどう付き合うのか。フリースタイルのトークと会場とのディスカッションでHIV/AIDSと共に生きることを考えた。

来場者感想：

初めてこのプログラムに参加しましたが、新鮮でした。パトの考え方、とてもPositiveで刺激をうけました（20代、教育関係）。AIDS教育の方向性が少し見えてきた気がします。元気をいただきありがとうございます！！（50代、NGO/NPO）。はじめ、HIVが人生で最悪のことであり、最良のことであったと言う意味にピンとこなかったけれど、人生の意義を深く考え追求する理由になったというのは、やはり最良のことであったのかなと思いました（20代、教育関係）。性的自己決定の考え方「自分で考えて、自分で決めて、自分で責任をとる。」ということを感じました。日本人は「自分で責任をとる。」という意識が希薄だから、性的自己決定権を行使できてないんじゃないかと思いました（20代、学生）。

連絡先：

岩室紳也：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階

(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

TEL： 03-5275-1051 FAX： 03-5275-1052

紳也's HP：（HPからメールや講演の申し込みができます）

パトリック：E-mail：patrick@p.email.ne.jp

1万回以上

薬を飲んだ計算になるけど
一回も飲み忘れていないよ

第20回 日本エイズ学会・学術集会(予告)

テーマ：

Living Together ネットワークを広げ、真の連携を創ろう

主催 日本エイズ学会

会長 池上千寿子（特定非営利活動法人ぷれいす東京）

会期 2006年11月30日—12月2日（木—土）

会場 日本教育会館・一ツ橋ホール 他

後援 厚生労働省 エイズ予防財団、東京都医師会

東京都看護協会 日本臨床心理士会

日本社会福祉学会 他

四半世紀をHIVと共に生きてきたわたしたち、しかし、いまだにその広がりをおさえることができません。私たちは、何ができてきたのでしょうか。何ができなかったのでしょうか。

この機会に、行政、企業、専門家、NGO、HIV陽性者、メディア、市民が専門領域や立場をこえて、縦割りではなく横割りの視線でもう一度エイズを捉え直してみませんか。ここから日本のエイズを変えていきましょう。

新しい出会いと
嬉しい再会

コラム「継続」

AIDS文化フォーラム in 横浜において「継続」を考えると、今年のキーワードは「再会」だった。今年久しぶりに、当初薬害エイズ訴訟原告団の川田龍平さんが教え子と参加。今回はピア（仲間）による教育をテーマに参加されたのが印象的だった。AIDS文化フォーラム in 横浜が続いていることで、AIDSに取り組む人たちの次なる活動の展開を私たちは共有することができる。フォーラムに会場した人が、翌年のフォーラムで発表していることもある。AIDSが大きな問題であるがゆえに、一過性に終わらないフォーラム「継続」の意義は大きいと思う。

会場ボランティアをしてくれた学生が、社会人となって数年ぶりに関わってくれた。学生時代の友人が、子どもを連れて参加してくれた。新しい出会いと共に、再会がある。

一年後、また会えるといいな。

(AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会)

文化・パフォーマンス・その他

□ *Yesterday Today Tomorrow* 昨日、今日そして明日へ

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：

タイ北部の村でHIVに感染しながらも、生きる希望を失わない家族の姿を3年間に渡り見つめたドキュメンタリー。

○制作：直井里予・アジアプレスインターナショナル

2005バンコク国際映画祭出品作品

丘陵に囲まれた自然豊かな農村に暮らす2家族のHIV感染者たちの生活の中にゆっくりと流れる時間、そして「今、この瞬間」を生き続ける姿を通して、生の根をじっくりと見つめていく。（映画パンフから抜粋）

「もし、あなたがこの映画を観て泣くとすれば（たぶん泣いてしまうでしょう）、それは主役たちをかわいそうに思って泣くのではなく、彼らがしたり、言ったりすることのすべてがいかにもっともであることが理解でき、またそれ以外には選択の余地がないのだというあまりに痛ましい事実気づいて泣くのである」（バンコク・ポスト紙）

映画上映会では、映画を監督した直井里予さんにドキュメントの制作にあたっての思い、製作過程での家族との対話、そしてタイのことを語って頂き、心に残るプログラムとなった。

連絡先：

映画の公式ホームページ URL:<http://www.riporipo.com/ytt/>

生きる希望を失わない



コラム～若者の視点から～

このフォーラムでは、普段の生活では聞きにくい、いわゆる下ネタだとか、セクシャリティーのことをなぜか当たり前のように聞けてしまうから面白いんです。来ている人はみんな少なからず問題意識を抱えている人たちだから、こちらとしても話しかけやすい。

ボランティアにはそういう若年層が多いのに、来場者には若者の数自体が少ない気がする。なぜだろう。

会場に来た大人達の周りには青少年がいないのだろうか？そんなはずは無い。今度は是非お子さんを、生徒さんを、お孫さんを、一緒に連れてきてみてはいかがでしょう？きっと一夏の良い経験になるはずです。（AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会）

□心と心をつなぐ腹話術～教育プログラム～

主催：JOINT HEART

思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション教育プログラムの活動を行います

内容：

心と心をつなぐ腹話術～教育プログラム～

[はじめに]エイズや結核は現在でも多くの健康被害者をだしており軽視できません。2010年頃に爆発的発生が予想されています。なんとか防ぐことはできないでしょうか。

[目的]①性感染症の予防②結核の予防③健康腹話術の普及④行政の立場でなく、行政にできない隙間をうめる。

[対象]①小学生②中学生③青少年④高齢者⑤その他～幼児・妊婦など

[ねらい]①自分の誕生や男女の違いを正しく受け止め、生き物の誕生や成長にも気づき、いのちの尊さを感じとる。
②男女には、それぞれ違いがあるが、どの友達も同じように大切であることを知り、友達を思いやる心を育て、将来の男女の人間関係の基礎を築く。

[プログラム]教育プログラムvol.1:「あなたも、わたしもたいせつなからだ」

②わらってげんきになろう！みんなで腹話術にチャレンジ！！

③教育プログラムvol.2:「こころとからだのふしぎ」

[評価方法]①アンケート②自己評価③第三者評価

[まとめ] HEALTHY HAPPY FORUM

フォーラムへのメッセージ

12回で満足することなく20回目をめざしてがんばってください。JOINT HEARTとしては参加者の反応がよかったので今後も活動を広げていきます。来年もがんばって参加いたします。

参加者の反応：

①子供がじぶんで意見を言える場がもっと必要であると感じた。②自分と他人の意見を交換することが楽しくいろいろなことを学べた。など。

連絡先：

代表者 畠山雅行 FAX： 0743-78-9841 E-mail：m-hatake@m4.kcn.ne.jp

コラム ～文化・パフォーマンスの12年～

そもそもこのフォーラムのプログラムの全てが「文化・パフォーマンス」の範疇にはいるもの… わたしたちの生活や文化から「AIDS」だけを切り取って提示できるわけではなく、全ての個人やグループが、その立場、思い、経験、手法で、「いのち」と「きもち」を「かたち」していく作業、個人の経験を社会の経験にしていく作業が、AIDS文化フォーラム in 横浜そのものなんですよ。

そんな前提を理解してもらった上で、12年間の盛り沢山のプログラムの中から、個人的に印象に残ったフォーラムプログラムを勝手に列挙させてもらおうと… 第1回/1994年：PWAのダンスセラピーをとりあげた演劇「私を甦らせて」（新人会）、身体を使ったリラクゼーション（小貫大輔） 第2回/1995年：母親が語る-薬害エイズと家族-（川田悦子他）、心とからだを感じるワーク（あのね広場）、エイズを生きる（土橋正之写真展） 第3回/1996年：性風俗とHIV/AIDS（CAI）、TAKAYOSHI青春の旅（岩崎孝祥作品展） 第4回/1997年：映画「秋桜（コスモス）」+トーク（すずきじゅんいち）、Video Against AIDS（高村文子） 第5回/1998年：ビデオ「神様もう少しだけ」&トーク（深田恭子他） 第6回/1999年：舞踏・身体表現+交流サロン（成田右子）、映画「ファザーレス（村石雅也）」今を生きる（ビリー・ハワード、石田吉明、大塚敦子、李東桓、長沢勲写真展） 第7回/2000年：ジャズコンサート（JAWSプロジェクト）、空缶収集プロジェクト（吉永千尋・さやか） 第8回/2001年：琉球太鼓（横浜DARC）、アクション・ペインティング（岡田阿礼・涌井陽一） 第9回/2002年：H. I. Voice朗読劇場（横浜市立城郷中演劇部・市川市立大洲中保健委員会）、体験してみよう「タイの農村での参加型エイズ教育」（シェア他） 第10回/2003年：さらば悲しみの青春（水谷修）、この10年を振り返って（藤原美穂他） 第11回/2004年：即興再現劇を使いAIDSを共に考えよう（プレイバックーズ）、映像・ハンドマッサージ・写真メッセージ（MTV JAPAN&BODYSHOP） 第12回/2005回：飯島愛と北山翔子が語る“愛・性・生”（岩室紳也ほか） 映画「昨日 今日そして明日へ…」絶望のなかのほほえみ（後藤勝写真展トーク） ネットワーキングパーティー（矢部尚美企画）などなどほんとに幅広いプログラムがありました。この多様な表現が、AIDS文化フォーラム in 横浜の豊かな出会いと、「感動」という圧倒的な情報伝達を可能にしています。支えてくれている全ての皆さんに感謝です!!

（AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会）

セクシャリティ・性教育



心地よさの中で
何が重要なのか
だけは忘れない
授業をしたい

□ アイスブレイカーズ

主催：横浜エイズ勉強会

HIV/AIDSに関心を持った人が寄り合って出前授業に対応。それぞれの持ち味で背伸びしないで一人ひとりに向き合おうとしています。

内容：

正しい知識は必要かもしれないけれど、嫌な気分の記憶と一緒にその知識が残っていても多分その知識は活用されないと思う。できるならば、心地よさの中で何が重要なのかだけは忘れない授業をしたい。そんな気持ちで一つ一つのワークショップを考え一人ひとりに向き合おうとしています。ワークの流れの中に、緊張を解くため、話しやすくするため、体で感じながらいろんなことを知ってもらうためにゲームのようなことを組み込みます。それらをアイスブレイクと呼んでいます。今回は、今までにやったことのあるアイスブレイクを参加者と共に味わいました。

始めに「エナジー」（掛け声と大きな動きでエネルギーを発散）、「笑いのハヒフヘホ」で身構えている参加者に砕けてもらい、「仲間さがし」（グループ作り）、「自己紹介ゲーム」を経て、共同絵画（無言でのグループ作業）、リラックスし気持ちが表現しやすくなったところで、「ロールプレイ」、「コンドーム装着ゲーム」と性教育、感染予防の実践テクニックを体験。「マッサージ」で再度、緊張を解いてもらい意見交換。各地で活動されている方たちからの的確なアドバイス、「こんなアイスブレイクもあるよ」とみんなで体験したりと短い時間をフル活用して楽しく学びあうことができました。

連絡先：

横浜エイズ勉強会

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜中央YMCA・NPOサポートセンター内

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

□ 「STD・AIDS出前講演～どう話してる？」

主催：富岡順子(厚木保健所)＋金井多恵(相模原市保健所)

各々の出前講演会の実際を具体的に紹介。

内容：

学校に出向き、パワーポイントを活用し講演している二人の保健師が、各自の展開例を紹介した。前半は複数のスタッフで取り組む相模原の一例。クイズ番組のスタイルを取り入れた導入は、参加者にも、生徒として実際に体験してもらった。「身近感」をテーマにした内容は参加者にも好評だった。後半は、厚木の一人で講演するスタンダードな例。具体的でわかりやすく生徒に伝える教材、表現の工夫を、部分的に実際場面を再現して伝えた。今回、主催側は、「他の人の取り組みを知ることが、刺激となり、新たな発想、レベルアップにつながる」との考えで実施した。参加者からは「刺激になった」「今後の展開のため、紹介した教材を参考に欲しい」など、各自の活性化を感じさせる声が多く聞かれた。

連絡先：

E-mail: tomioka.cxby@pref.kanagawa.jp

□ 学生によるピアエデュケーション

主催：川田龍平・STeaDy project

川田龍平は東京HIV訴訟原告、松本大学非常勤講師、STeaDy projectは性の問題に興味のある人たちが集まって話し合う松本大学のサークルです。

内容：

はじめに、薬害エイズ問題を取り上げた「あやまってよ`95」を上映、その後川田氏による補足説明をし、若者が旧厚生省前に集まりデモをすることで社会に影響を与え世論を動かすことができたことと強調。次にSTeaDy project紹介で、部長の小林裕二が紹介ポスターを使ってピア団体として発足までの経緯、活動の紹介をしました。その後席を円形に動かし、全員が向き合えるようにした上で川田氏のコーディネートで討論を始め、ピア活動をしているという人たちに自己紹介をしてもらい、活動する上での努力、苦勞、メリット、デメリットといった話題を提供し、発言してもらいました。最後に、何人かに感想を述べてもらい、どうやってSTIといった性の問題に関心を集めさせるか、これからピア団体がどうあるべきか、そのために外国に倣い団体同士が密にコミュニケーションをとり、常に問題意識を持ち社会に政策提言すべきとの課題があるというまとめをしました。

連絡先：

川田龍平

TEL：0263-47-1579 FAX：0263-47-2879 URL：http://www.kawada.com/

E-mail：kawada@matsu.ac.jp

STeaDy project部長 小林裕二

TEL：080-5143-8905 E-mail：03k074@matsu.ac.jp

□ 北沢杏子のエイズの授業 — 紙芝居と手人形を使って —

主催：「性を語る会」

1987年設立。代表 北沢杏子。講座、機関紙の発行、各種イベントの開催。

内容：

毎年会場が満席になること、会場が縦に長く、後ろの席の方々には、パネルや教材が見えにくいことから、今年は「知ってる？免疫とエイズ」という、小学校高学年対象の紙芝居を、パワーポイントで作って上演した。感想文には、「きょうの紙芝居で、私自身がHIVのことをよく理解できた。北沢さんのすばらしい実践の数々に感激」（20代養護教諭）。また、「子どもたちを上手に巻き込んでいく人形劇などの教育技術に学ぶところが多かった」（20代、神奈川県教育関係者）、などがあった。「コンドームの正しいつけ方10か条」は、毎年遠方から駆けつけてくれる、「性を語る会」の会員に実演をお願いし、爆笑のうちに進められた。なお、去る7月1～5日の「第7回アジア・太平洋地域エイズ会議」報告を書き、配布。パネルと共に、アジアにおけるエイズ拡散の講演もおこなった。1階展示会場のコーナーでも、新しい趣向を凝らした教材や著書などを展示し、好評を得た。

連絡先：

「性を語る会」事務局 島沢二三子

東京都世田谷区用賀3-5-6アーニ出版内

TEL：03-3708-7326 FAX：03-3708-7324 E-mail：shima@ahni.co.jp

常に問題意識を持ち
社会に政策提言すべき



□7th ICAAPセックスワーカー・プログラム報告会

主催：SWASH(Sex Work and Sexual Health)

セックスワーカーが安全に働けるよう活動するグループ。HIV/STD予防などの性に関わる健康面に焦点をあてている。

内容：

今年7月行われたアジア太平洋地域エイズ国際会議におけるセックスワーカー（以下SW）グループ主催のプログラムと、SWに関する研究発表内容を報告した。まず日本のエイズ施策におけるSWの位置づけ、エイズ国際会議の概要といった基礎知識から説明。続いてエイズ会議で見られたSW関連の研究や講演を紹介した。プレナリーセッションでは、アジア地域のSWの動向として、無定形化/IT化/人の回転が加速、の三点があげられた。また、アジア太平洋地域のSWグループのネットワークAPNSWが強調していた米ブッシュ政権の施策による損害について報告。昨年米政府が海外支援金の使用に際し「売春および人身売買に厳格に反対することを求める条項」を追加したというもので、アジアを含む世界全域でSW当事者と連携して行われていた予防活動が深刻な影響を受けている。例えば資金難による活動停止、反売春派による「救済（という名前の軟禁）」に合うなど。SWグループ主催の企画からは、クローズドミーティングでまとめられた各国のSWの状況を紹介。香港のSW関連グループ「紫藤」によるワークショップの様相や、APNSW主催のバービー人形を用いたワークショップの様子も報告した。

連絡先：

SWASH

URL： <http://homepage2.nifty.com/swash/>

E-mail： swash@mbn.nifty.com

自分の意見、

ちゃんと持ってる？

□いろいろな性 安達倭雅子

主催：NPO AIDSネットワーク横浜

93年2月にエイズの予防啓発を目的として発足。電話相談、ボランティア養成講座、出前講座等を実施している。

内容：

この講座は、予防啓発活動、電話相談養成等を目的とした「第13期ボランティア学校」の講座の一プログラムとして開催しました。

講師は、95年の北京女性会議で提起され人類最後の人権といわれたセクシュアルライツについて、男に生まれたか女に生まれたかでなく自分らしく生きる権利だと説明されました。性が政治や宗教に利用されてきた歴史と現在も政治の中で性教育がどのように扱われようとしているのか、学校教育の中で子どもたちに十分な性教育が届いていない現実を淡々と話されました。後半は、異性愛・同性愛・両性愛・異性装・トランスジェンダー・トランスセクシュアル・半陰陽についての説明を、性器・性自認・文化としての服装・性対象を表に書いて説明し、事例を交えて多様な性の理解を深めました。広範な性の話は参加者に好評でした。

連絡先：

横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F

横浜AIDS市民活動センター内 AIDSネットワーク横浜

TEL：045-201-8808 FAX：045-201-8809



□性教育における参加型授業を考える

主催： “人間と性” 教育研究協議会かながわサークル

「科学・人権・自立・共生」をキーワードに子どもと共に「性」のあり方や生き方を考えて実践をしているサークルです。

内容：

「参加型授業」を探る意義を5つにまとめてみた。①「雰囲気作り」「自己理解・自己受容、他者理解・他者受容」「コミュニケーションスキルトレーニング」としての意義。②多様性こそその真髄であり、指導者側の一方的な教示では足りない部分を、仲間との交流によって補い、自分にとっての意味を認識しやすくするための意義。③受身で得たものより、自分で動き、考え、調べ、語り、仲間の声に耳を傾ける事によって得た知識の方が定着度、浸透度共に効果が期待できるという意義。④得た知識を日常に生かす・応用するという高度で複雑な技術を学校教育の中で保障する方策としての意義。⑤楽しく学ぶ事が、最高に身につく。そのための手段を、教える側が沢山のバリエーションとして持つ事の意義。そこで、今年のフォーラムでは、まず始めに「さくらの物語」というワークを実施しました。これは同じ題材を与えられても、多様な物語が生まれる＝性の多様性に気付いてもらうことがねらいだった。さらに初めて会う人・体験する人が少しでも多くのバリエーションを持ち帰って、実践に生かす事が出来るようにといくつかのアイスブレイクを体験してもらった。

連絡先：

性教協かながわサークル 南雲由美子
〒194-0004 町田市鶴間661-1-2-1513 TEL&FAX： 042-799-6205

□HIV/AIDS教育で使いたいPower Point教材

主催：（社）地域医療振興協会 岩室紳也

内容：

教科書にはHIV/AIDSの記載があり、教師の参考資料の中にも授業の組み立て方に関する情報は少なくない。しかし、実際に授業を組み立てようとするとき必ずしも情報や資料が十分とはいえない。学校現場で教師や保健医療関係者が講義の中で使えるようにとの思いでPower Pointを作成し、昨年フォーラムで紹介し、ホームページで公開した。今年さらにバージョンアップしたPower Pointを用いた授業の組み立て方を紹介した。

来場者感想：

人づくりの一つの手段としてHIV、性教育を使うそもそもの目的を再確認できました。子どもたちと真剣に向き合いたいと思います（40代、保健医療関係）。“真剣に話すこと”の大切さを改めて感じました。そこで初めて伝わるのだと思います（20代、教育関係）。学校での性教育の扱い方かなりの制限が増える中、岩室先生の話のような現状にある子どもたちに伝えなくてはと思うこと、生きる力となる性教育を考えているのですが、リアリティのない指導者である私にでもやれること、伝えられる形を探して参加しました。近くにはないのですが、少し先に灯りが見えてきました（40代、教育関係）。感染している人がいたらどうしたい、感染したらどうして欲しいという発問が授業の中でよく取り上げられ、とてもおかしいと思っていました。逆に感染したらどうしたいという発問をおかしいと言われることがあったのですが、私はこれでよかったと思うことができました（教育関係）。

連絡先：

岩室紳也：〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階
（社）地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
TEL： 03-5275-1051 FAX： 03-5275-1052 紳也's HP：<http://iwamuro.jp/>
（HPからPower Point教材がダウンロードできます。岩室へのメールや講演の申し込みもできます）

使える資料は

みんなで共有しよう



□ 学校や地域で役立つ朗読ワークショップ

主催：H. I. Voice Act (藤江直樹、桜屋伝衛門、山村まゆみ、岡島龍彦)

「リラックス」「楽しむ」「感じる」を基本に、通信誌「H. I. Voice」を声に出して読み、聞き、思いを「語る」ことから、エイズを自分自身の問題としていく活動

内容：

- 1 リラックス/エナジー(藤江)・笑いのハヒフ(桜屋)・マッサージ(岡島)
- 2 基礎知識/女の子と男の子の身体の仕組み(山村)・血友病と薬害(桜屋)
- 3 楽しむ/パッチン回し、仲間探しゲーム、ウォーキング、目を閉じる歩く
- 4 HIV/AIDSに影響を受けた人たちの声を聞く(Voice誌からの抜粋文を輪読)
- 5 読んで、聞いて、感じた事、思う事の意見交換

参加者の感想：

- 10代・神奈川県:色々なコミュニケーションが面白かった。
 10代・神奈川県:今日ここで読んだ手紙をもっと多くの人に聞いてもらいたい。
 20代・東京都:小学生や中学生の普段聞けない人たちの意見が聴けてよかった。
 20代・北海道:種々のゲームも楽しみ意味を理解し、今後役に立てる良い機会。
 20代・東京都:今日の事は自分がワークショップを開く時の参考にさせてもらおう。
 30代・神奈川県:中学生の参加が目立った。どのような感想を持ったか興味深い。
 30代・神奈川県:地味なようでいて、安心感や爽快感を味わえるプログラムだった。
 40代・滋賀県:このワークをPTA等の研修やってみたい。すごく和やかないい時間。
 40代・新潟県:色々な立場の方の手記を朗読する事で、少しでも近づく事は有益だ。
 50代・千葉県:生のことばが人の心に伝わる力が大きいと感じた。

連絡先：

岡島 龍彦(H. I. Voice Act)
 〒231-0023 横浜市中区山下町225-1-301 Iptel : 045-900-5040
 FAX : 045-662-8443 E-mail : tatu-hiko@mpd.biglobe.ne.jp

□ 医者と教師がつくるエイズ教育

主催：安藤晴敏、岩室紳也

内容：

医者はコンドームを使わなかった、エイズ検査を受けなかったために感染した人たちの診療をし、とにかく何とか予防を徹底したいと思うが、予防教育の最前線にいる教師は学習指導要領を基本とした授業展開を求められている。一見思いが相反する医者と教師がいま、エイズ教育の中で何を取り上げる必要があるのか、どのような授業が求められているのかを昨年引き続き検討し授業を組み立て、その実際を紹介した。

来場者感想：

現場で使える教材がわかりやすく、また入手できるので参加できてよかった(40代、教育関係)。安藤さんの授業に岩室さんがコメントするというセッションは良かった。若者に最低限この授業のレベルのことは知っていて欲しい(50代)。学校では指導要領に基づいた内容、生活指導を含めた内容の授業が必要であると理解しました。保健所としては、そういう内容も理解しながら正しい情報を選ぶ技術も伝えていけたらよいと感じました(20代、保健医療関係)。多くの教師がこの講義を聞くと考えがかわると思う。AIDS/HIVを語る時、人は生きる力を何かしら得ると思います。それは性のこと、自己決定、差別・偏見など、多分野にわたるからです。そういう意味でという限定のもとで言いますがAIDS/HIVについて語ることは教育面では「便利」であると思います(20代、学生)。

連絡先：

安藤晴敏：神奈川県立津久井高等学校 〒220-0209 津久井郡三ヶ木272-1
 TEL : 042-784-1053 FAX : 042-784-7960
 岩室紳也：(社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター
 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 日本都市センター9階
 TEL : 03-5275-1051 FAX : 03-5275-1052 紳也's HP : <http://iwamuro.jp>
 (HPからメールや講演の申し込みができます)

医者と教師の

コラボレーション



□ 学習指導要領ってどうなっているの 小・中・高等学校と地域との連携を考える

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

シンポジウム

シンポジスト：

県教育委員会教育局保健体育課 指導主事 大石 進

厚木市立森の里中学校 養護教諭 吉岡 美雪

茅ヶ崎市立鶴嶺中学校 元PTA会長 岡村 ゆみ

県立津久井高等学校 教頭 安藤 晴敏

医師 岩室 紳也



内容：

前半は、各シンポジストからの意見発表を行いました。教育委員会からは、学習指導要領とは何なのか。性・エイズ教育を推進する上でのポイントは何か。中学校養護教諭からは、保健室からみた中学生の様子や学校ではどんな性・エイズ教育が行われているのか、その実践例の紹介。PTA保護者からは、性・エイズ教育を前向きに親自身が学ぶことの大切さを知ったこと。家庭の中では、性という触れにくい部分を学校で教えてもらえると助かること。高等学校教頭からは、高校での性・エイズ教育の実際や、今の生徒の実態、エイズ教育とはつまり「生き方についての教育」であること。医師からは、専門的な立場からHIV感染者、AIDS患者の統計的なデータ提示、最新医療や医療からのエイズ教育へのアプローチについて、等が発表されました。

後半は、会場の参加者を交えて、ディスカッションを行いました。千葉大学教育学部名誉教授の武田敏先生を始め、医療関係者、教育関係者、養護教諭、学生など幅広い参加者から、様々な意見をいただきました。性同一性障害や同性愛を現在の学校教育の中で扱うことの難しさや性教育を健康教育の一環として捉え、学校・家庭・地域の連携を図っていくことの重要性を再認識することができました。来場者の感想をみると、各立場の方の意見が聞けてよかった。学校間や地域により、性エイズ教育には差がある。有意義な企画だった。等のご意見をいただきました。

連絡先：

AIDS文化フォーラム in 横浜事務局（横浜YMCA内）

TEL：045-662-3721 FAX：045-651-0169

コラム AIDS文化フォーラム in 横浜／レッドリボンウィークの感想

私は初めてAIDS文化フォーラムに参加したのですが、そこは驚きにあふれていました。年代も職業も違う多くの人たちがこのフォーラムを支え、関心の高まりを肌で感じました。けれども、AIDSを身近に感じている人はまだまだ少ないと思います。多くの方がより良く生きる為にも、正しいAIDSの知識はますます必要といえると思います。私も、このフォーラムを通じて、知識を得て、偏見を持たずにAIDSに向き合えたように思います。しかしながら、このフォーラムは、AIDSを知り、理解を深めるだけのものではないのです。このフォーラムからAIDSを筆頭とした、病気、性、倫理、貧困など、数え切れない程のわたしたちの「生きる」ことへの問題を知ること、話し合うこと、触れること—様々なアプローチによって、他人事ではなく、自分の、そして世界全体の問題であることを自覚することができる場なのです。このフォーラムに参加して、私にとってのAIDSは、もう他人事ではなくなりました。AIDSのニュースを見ても、それはもうただの耳を通り過ぎる情報ではないのです。無視することの出来ない、自分に関係のある物事として、考えるようになりました。つまり私を「いのち」に対して敏感にさせてくれたのではないかと思います。そしてそれは私の人生の貴重な財産となるでしょう。

2005年 神奈川県庁 健康増進課インターン生 内藤 清華

□ 男性同性愛者への理解と HIV/AIDS感染予防・普及啓発のあり方

主催：神奈川県保健福祉部健康増進課

神奈川県では年に3回のエイズ予防啓発強化月間「かながわレッドリボン月間」で、写真展やその他の展示など、さまざまなイベントを開催しています。

内容：

近年、男性同性間の性的接触によるHIV感染の拡大が深刻な状況となっていますが、その実態と、行政・研究者・コミュニティの3者の連携によるHIV感染予防対策について市川誠一氏（名古屋市立大学大学院教授）から、神奈川県内で実際に男性同性愛者に対し予防啓発活動を行っている当事者ボランティア団体の活動をシンジ氏（横浜CRUISEネットワーク）から、またMSMを対象にしたメンタルヘルスに関する調査研究の結果について日高庸晴氏（京都大学大学院）からそれぞれお話しいただきました。HIV対策において同性愛者へのアプローチは重要だとわかっていても、その実態や現状については学校教育も含め、同性愛者自身ですら普段ほとんど知る機会がありません。参加者の1/3は教育関係者、1/3は保健医療従事者でしたが、「別の切り口からエイズをとらえることが出来た」「これからの子どもへの対応に生かせる気づきがあった」「普段の対応で相手が異性愛者だと無意識に決め付けていることを再認識した」など、同性愛者の生育歴や心理について知ることにより、自分自身が「知らないでいたこと」に気づいたとする感想が多く寄せられました。効果的な予防啓発を考える出発点はまずここからではないでしょうか。

連絡先：

神奈川県保健福祉部健康増進課エイズ・感染症対策班 彦根倫子
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL：045-210-4793（直） FAX：045-210-8874

□ エイズと私たちの関わり ～学校現場での実践経験から～

主催：山田七重

（健康教育アドバイザー・山梨大学医学部社会医学講座非常勤勤務）中・高校生への講演活動。山梨県・神奈川県の性感染症予防に関する普及啓発パンフレット「じぶんたいせつぶっく」の著作担当。

内容：

山梨・神奈川を中心とした中学生・高校生対象の講演内容を紹介。なかなか身近には感じにくいエイズの問題を、等身大の問題として子ども達が捉えられるようにするための、子ども達の目線からはじめるエイズ予防教育。事前調査の「エイズは自分にはあんまり関係ないと思うか？」という問いかけと、子ども達が「関係ないと答えた理由」を軸にして、本当に自分達に関係がないかどうかを考えてもらう。そして、県内のHIVの状況や、HIVに感染した人達の手記等を通して、自分も感染するかもしれない、感染した人と同じ社会に暮らしている、という視点に気づいてもらい、「自分にも関係があるんだ」と思うことが大切なこと、そして、自分にできること（予防・ともに生きること）を一人ひとりが考えていくことが大切であることを伝えていく内容であった。

後半では、講演前後の調査結果から見られた子ども達の意識の変化や、講演後に受けたメール相談の内容紹介も行った。ご参加頂いた方々から、パワーポイントの雰囲気や、事前調査の結果を講演内容に反映させる方法等、子ども達に身近に感じてもらうためのいろいろな工夫が参考になった、とのご感想を多く頂いた。

連絡先：

山田七重 E-mail：ynana@yamanashi.ac.jp
FAX：055-273-7882（山梨大学社会医学講座）

“性”を身近に
AIDSを身近に



□共に考えよう!エイズ対策と性(命)の教育

び に い

主催：PNY (Peer Network Yamagata)

PHA、NGO・NPO、学生・PTA・教育者、医療関係者・行政等、様々な立場のメンバーが対等な立場で共に AIDS/STI の予防対策を考える会です。

内容：

性教育バッシングの中、子ども・若者たちに HIV/AIDS・STI 予防をどう伝えていくか、みんなで検討していくことを目的に開催しました。

PNYの活動報告：各学級や学校単位ではなく地域全体の性問題を改善していくためには何が必要か、地域と学校・保健行政の連携をメインにお話し、皆さんとディスカッションしました。

子どもたちに性教育ができたとしても、地域にいる大人たちの意識が変わらなければ子どもたちに悪影響を与えます。PNYの地域の取り組みは、学校の性教育にPTAや近隣住民を巻き込み、平成10年全国で第3位だった山形県の10代人工妊娠中絶率は平成15年には23位まで下がりました。

今回はそのような効果を上げながらも、性教育バッシングのため山形県全中学校へ配布中止になったPNY作成の指導用PowerPoint教材を皆さんに差し上げました。大変好評でお帰りになった皆さんの地域で徐々に使用してくださっているようです。PNYは皆さんの地域の性問題が改善するための一助になればと思っています。

“性教育”は字の通り、“生きるための心の教育”です。子どもたちに真の「自分を大切にす意味」を理解してもらえよう活動を継続していきます。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

連絡先：

代表 わたらい 渡會睦子 E-mail : mutsuko@mub.biglobe.ne.jp
〒154-8568 東京医療保健大学 東京都世田谷区世田谷 3-11-3

□子どもと学ぶエイズ

主催：ホン ヒサオ(HIV感染者)と川口子どもネットワーク

内容：

HIV感染者と川口子どもネットワークの子どもとエイズ教育をいっしょに行いました。今まで、子どもたちの性教育などについて養護教員など子どもたちに発表など行いました。

参加した人の感想：

中、高生として若い世代から性のアプローチ、そしてエイズというものに関して興味をもちました。

連絡先：

洪 久夫 (ホン ヒサオ)
〒164-0012 東京都中野区本町6-17-12フローラ新中野202
FAX : 03-3384-0549
TEL : 090-2912-0752
サイト(ひさおの部屋) <http://www.interq.or.jp/www1/hon/>
E-mail : hon@m1.interq.or.jp

“性教育”は
“生きるための
心の教育”



□映画「50×5」上映会 ／セクシュアリティとエイズ

主催：横浜Cruiseネットワーク

内容：

名古屋で実際に起きた実話をもとに製作された映画「50×5」の上映を行い、その後で検査の現実や陽性者との関わり方について話し合った。

会場からは、映画の中での友人や家族への告知のあり方と、周囲の対応の仕方についていろいろな意見が出された。

また、陽性者であることが言えない今の環境を変えていく必要があるという意見も出された。

連絡先：

横浜Cruiseネットワーク

E-mail：info@y-cru.com

URL：http://y-cru.com/

陽性者であることが
言えない今の環境を
変えていく必要がある

□ワークショップ 「性行為の自由について考える～"SEX"は"権利"か？」

主催：エイズを伝えるネットワークTENCAI

TENCAIでは、HIV/AIDSの啓発を軸に、広く思春期のこころとからだの問題を扱いながら、参加者のセルフ・エスティームを高めたり、健康への気づきを促すワークショップを開催しています。

内容：

東京都の「青少年の性行動について考える委員会」で「中学生の性行為を条例で禁じるべきだ」という議論があったことを題材に「制度による性行為の禁止の妥当性」を議論する中から、「SEXする」行為の中に含まれる「権利」を浮き上がらせようと試みるワークショップを行った。医療・保健関係者を中心にNGO、学生、マスコミや教育関係など、多様な立場からの参加者による議論から、「性行為の規制」が制度化される際には「規制の対象となる人」「規制される行為」「処罰の対象となる人」「処罰される行為」のそれぞれに対して、規制することの正当性を十分吟味しなければならないにも関わらず、議論によって論点がずれていくこと、正当性の中心となる「正しさ」が多様に存在する場合に、どのような基準で「正当性」を採用するのかという問題、そしてそもそも「性行為」は人の所有物ではなく「関係性」であり、その「関係性の自由」は「権利」と呼んで良いものなのか、またその「自由」を規制することは妥当なのか、などの論点整理がなされた。この経験から、今後「権利」と「自由」と「欲望」の関係を整理できるようなワークショップ開発を準備していく予定である。

連絡先：

エイズを伝えるネットワーク (TENCAI)

〒101-0021千代田区外神田2-1-11 松住ビル2F B室 わかばてい2内

E-mail:mail@tencai.jp



□ 基礎講座

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

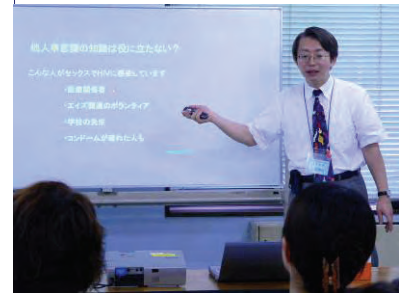
内容：

AIDS文化フォーラム in 横浜は文字通りHIV/AIDSに関する文化的なことを含めて、様々なジャンルやレベルのことが紹介されるフォーラムです。フォーラムを聞きに来られる方は、実際に感染している当事者の方から、これからHIV/AIDSについて学びたいという方まで多様です。エイズ基礎講座はHIV/AIDSについての基礎的なことを学んでいただけるよう運営委員会で企画し、今年度は北山翔子さんの協力もいただき「エイズって何?」、「予防・治療は今?」、「人権・共生・いのちを考える」の3回行われました。

連絡先：

AIDS文化フォーラム in 横浜事務局（横浜YMCA内）

TEL：045-662-3721 FAX：045-651-0169



正しい知識が
差別をなくす
一番の近道

コラム 性教育

最近では、性教育はますます「難しくなった」「やりにくくなった」という印象があり、その上、ふと気づくと、それが性教育に積極的に取り組まない言い訳になっていたりして・・・。

近々、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」「性感染症に関する特定感染症予防指針」が見直されます。その検討の中では、学校と地域の役割分担とか発達段階に応じた内容、実態の調査と評価など様々な話題があったようです。これが、やさしい追い風になるといいのですが。

こうした行政としての取り組みだけでなく、子供たちには、いろいろな人に会って、いろいろな言葉を聞く機会があるといいなと感じています。もちろん、「性」に関しても。

いろいろな考え方の違いの人たちがうまく「つながる」ことで、一人の言葉で傷ついても、違う出会いで気持ちを切り替えられる環境にならないでしょうか。

今は、子供たちをどう見守っていくのかととまどい、立場や考え方の違いを「批判」している間に、肝心の子供たちが腕の間からすり抜けていってしまっている状況のような気がします。そろそろ「批判」から「つながる」へシフトしたいですね。

AIDS文化フォーラムin横浜には、今でもいろいろな方が参加されていますが、「性教育」という切り口だけでも、まだまだ「つながる」可能性は十分ありそうです。

(AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会)

展示コーナー

◆わたしの目

主催：東京ビジュアルアーツ

写真、映像、デザイン等を学ぶ専門学校

内容：

AIDS文化フォーラム in 横浜に参加させていただき、2回目を迎えました。初参加の時も感じましたが、とても暖かい、心の体温が伝わる時間だったと改めて感じました。これは、この時に集まった多くの人々の中で生まれたものであり、私たちにとって大きな財産・機会だと思っております。

今年も前回同様エイズポスターを展示させて戴いたわけですが、私たちは、デザインを学ぶ学生がエイズポスターを作成し、「自分の性」について改めて体験することを大切にしています。そうして出来た作品は、「視覚エネルギー」を持って、社会にメッセージを発信してゆきます。「視覚エネルギーによって伝わる声」を、これからも大切に行動してゆきたいと思っております。素晴らしい時を、ありがとうございました。



◆Ban Rom Sai

主催：Ban Rom Sai

バーンロムサイ：バーンロムサイは1999年タイ北部チェンマイに設立された、HIVに母子感染した孤児たちの生活施設。

内容：

HIV/AIDSに関する啓蒙活動：コンドームやパンフレットの配布
HIV感染孤児たちの写真パネル展示

連絡先：

Ban Rom Sai Japan
〒150-0001 渋谷区神宮前5-49-8-102 TEL：03-3499-0227
E-mail: info@banromsai.jp URL: http://www.banromsai.jp

◆自由を目指して

～人身売買、今私たちにできること～

主催：ポラリスプロジェクト・ジャパン

ポラリスプロジェクトジャパンは、人身売買という「現代の奴隷制」問題に取り組むNGOです。人身売買行為に対する人権擁護活動や地域レベルでの監視や啓発活動と共に、法執行機関と連携し合い、一刻も早い被害者の救済のために活動しています。

内容：

「日本にある人身売買」という一般にはあまり知られていないこの問題を少しでも多くの市民の方々に知っていただくため、写真の展示、団体のプログラム内容に関する展示を行いました。同時に、被害者支援プログラムの一環であるカードの販売、そしてフィリピンの民芸品の販売を行いました。収益は被害者本人とフィリピン人支援団体KAFINへ寄付されました。高校生から大人まで、多くの方に立ち寄ってもらうことができ、この問題を少しでも多くの人に伝えることができたのではないかと思います。

連絡先：

ポラリスプロジェクト・ジャパン
東京中央郵便局 私書箱716号 TEL：050-3496-7615 FAX：020-4669-6933
E-mail: info@PolarisProject.jp URL: http://www.PolarisProject.jp

人身売買という
「現代の奴隷制」
問題
一刻も早い救済を

◆LAP Positive Talk の取り組み

主催：ライフ・エイズ・プロジェクト (LAP)

HIV感染者・エイズ患者への社会的支援活動を行なう非営利団体 (NGO/NPO) として1993年設立。

内容：

HIV/AIDSに関する最新情報やHIV感染者・患者のための生活福祉情報などを掲載したLAPニューズレターの無料配布・販売をはじめ、活動内容の展示、『ある日ぼくは「AIDS」と出会った～シミズくんのサポートグループ設立記』（ポプラ社）等関連書籍の販売、各種資料の配付等を行った。

連絡先：

〒100-8691 東京中央郵便局私書箱490号
TEL：03-5685-9716 FAX：03-5685-9703
URL：<http://www.lap.jp/>

◆PHILIP (フィリップ) =武相地域からの配信

主催：PHILIP

(フィリップ=Project of Health Information & Life Innovation for PLWHA) 八王子・町田・相模原地域に誕生した、HIV陽性者による陽性者支援を行うCBO (Community Based Organization)。コンテンツ配信とニュース発行、講師派遣活動などを行っています。

内容：

ブースにてリーフレットを配布する一方、パワーポイントの自動プレゼンテーションを小型プロジェクターでパネルに投影してPHILIPの新しい活動や組織の概要をアピールした。バナー用紙にロゴを配し、リーフレットの中身を掲示し、シンプルな展示にした

最も来訪者の多い土曜日にPHILIPでは午前、夕方と2つのセッションを持ったので、空席にしていたことが多かったが、約200枚程度のリーフレット配布ができた。

連絡先：

〒194-0298 東京都町田市相原町4342法政大学地域研究センター内
インキュベーション・オフィス601号「PHILIP」
E-mail：info@philip.jp mobile：080-3015-9924
URL：<http://www.philip.jp>



◆ABCキルト サポートかながわ

主催：ABCキルト サポートかながわ

内容：

ABCキルト横浜より2005年4月独立し、サポートセンターグループから「サポートかながわ」に名称変更しました。いままでどおりのキルト作りとともに、東南アジアやアフリカのエイズ孤児を支援する基金作りのため、手作り小物の販売もしていきます。

展示ブースをいただき、昨秋私たちのグループでキルトを持参訪問したタイのエイズホスピス「マーシーセンター」の写真、資料を掲示いたしました。

タイ最大のスラム・クロントイの写真など質問も多く、若い方々とも交流ができ、よかったです。また、手作り小物の販売には多くの方のご協力感謝いたします。直井さんの映画の協力者でもあるNGO CARE・ラックスタイの中菌久美子さんにはタイでご案内いただき、コドモファンドにも今後協力できればと考えております。

連絡先：

AIDS文化フォーラム in 横浜事務局 (横浜YMCA内)
TEL：045-662-3721 FAX：045-651-0169

◆ 「思春期の避妊と感染症」

主催：社団法人 日本家族計画協会 (JFPA)

社団法人日本家族計画協会では、主に思春期への性教育活動に尽力し、指導者の方へ教育活動等にも力を注いでいます。また、JFPA若者委員会(U-COM)の活動を応援しています。

内容：

初出展となる今回、他の方々のブースはどんな感じなのだろうと思いながらの出展となりました。本会は性教育を通じて、自分自身の体に関心を持ってもらえるように、リーフレットや小冊子を配布しました。リーフレットや小冊子は指導者の方には勿論、思春期の方にも解かりやすく記されています。また、性教育の補助教材として作成したCD-ROMも放映しAIDや他の感染症についての情報を提供しました。避妊、および性感染症を予防することにより自分自身を守り、相手を労わる気持ちをもつことによって、多くの方へサポートができるものと思っています。

連絡先：

社団法人 日本家族計画協会
TEL : 03-3269-4727 FAX : 03-3267-2658



◆ 一服のお茶から

主催：神奈川県立舞岡高等学校 茶道部

内容：

呈茶 入場者163名

8月5、6日の2日間、展示会場にて呈茶をさせていただきました。今年も懐かしいお顔の皆さんや新たにご参加の皆さんから、「ほっとする」「是非、また来年も」などと、嬉しいお声がけをいただきながら、ささやかながら呈茶を行わせていただきました。

また、オープニングセレモニーや分科会にも参加し、高校生立場からHIV・エイズに対して考える機会を得たと思います。展示場の展示物や参加されている様々な立場の方々の発言は、心の成長期にある生徒にとってかけがえのない時間と成長のチャンスとなりました。多くの大人の方々が高校生に対して親切にそして優しくご指導くださる様子や、小学生のボランティア活動の様子、同年配の人たちの活躍などから学ぶことも多く、それぞれに想いを持って活動を終わりました。関係の皆様のご尽力とご配慮に感謝致しております。

連絡先：

神奈川県立舞岡高等学校 茶道部
〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡3-36-1 TEL : 045-823-8761

◆ 啓発用DVD紹介

主催：株式会社ケーシーズ

内容：

今秋完成予定のHIV/AIDS啓発用DVDを展示紹介

連絡先：

株式会社ケーシーズ 〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル 3F
TEL : 0155-25-8739 FAX : 0155-21-7800 E-mail: kcs@tokachi.co.jp
URL: <http://www.tokachi.co.jp/kcs/>

自分自身を守り、
相手を労わる気持ち
を持つ

◆HappyTruckのご紹介

主催：Campus AIDS Interface

若者を対象としたHIV/AIDSの予防啓発活動として、「HappyTruck」の運営を行っている。

内容：

今回は我々が運営するバンプロジェクト「HappyTruck」のご紹介をブース展示いたしました。

HappyTruckは軽トラックの移動式ピアス屋として、約2年前から若者の集まるイベントやフリーマーケットなどで活動しております。

代々木公園でのイベントの様子を写真でパネル展示し、レッドリボンピアス・レッドリボンキャンディーの販売を行いました。

今回は屋内会場であったため車両は搬入できませんでしたが、アウトリーチの具体的な一例を提示できたのではないかと考えております。

ご来場の方々からたくさんのお言葉をいただき、レッドリボンピアスとレッドリボンキャンディーはご好評をいただきました。

連絡先：

〒223-0053

横浜市港北区綱島西4-15-7-202 目黒道人



◆エイズが育てる愛がある

主催：AIDSカスタネット倶楽部

エイズメッセージカードを独自の視点で制作・販売をし、その収益金を「AIDS在宅援助基金」としてプール。感染者らからの在宅におけるサービス要請に対して、通院介助、ランチを食べる、話し相手になる、部屋の片付け、調理などの具体的活動に対しそれにかかる交通費のみの実費を基金から支出したり、現在では学会参加や進行中のライブラリー運営などに基金を使っている。今後の展開ではライブラリー運営に力を注ぐとともに、新たなメッセージカードの制作にも取り組みたい。

内容：

「ポストカード・書籍展示・活動紹介ほか」

エイズメッセージカードの展示と紹介チラシの配布、販売も。1990年代に数多出版されたエイズ関連書物の紹介、販売。セクシュアリティ、ハンセン病、水俣病、中国残留孤児問題、「脳死」臓器移植問題、歴史教育や原子力発電の問題、沖縄の戦いなど、広範な問題に関わる書物を同時に紹介。ことにエイズと関わって「脳死」臓器移植や「絶対悪としての売買春」問題は力を入れて紹介をした。今回紹介できな かったが作家・山口泉氏の「宮澤賢治伝説-ガス室の中の「希望」」(河出書房新社・刊/本体2400円)は、お薦めしたい。エイズの時代の今日に、宮澤賢治が生きていたら、彼はエイズや、「脳死」臓器移植に対してどんな考えを示しただろうかという論考は、大変興味深いものがある。宮澤賢治の熱狂的ファンのみならず、エイズとともに生きる社会の実現に向けて活動する人たちにも一読お薦め。カードも書物も販売実数は微々たるものだったが、来場者との会話や他ブース出展者との意見交換は刺激的でもあった。

連絡先：

AIDSカスタネット倶楽部=名古屋市昭和郵便局私書箱94号

安藤鉄雄(あんどうてつお)

FAX：052-835-6444

E-mail：antetsu@nyc.odn.ne.jp

エイズとともに生きる
社会の実現に向けて

「今」の高校生の
行動や考え方の
一部を紹介

◆ 「高校生とエイズ2」

主催：（ユニセフ支援市民グループ）ふれきしぶるJr.

ふれきしぶるJr.は高校生のグループです。普段から高校生ならではの視点から活動に取り組んでいます。ユニセフ支援にこだわらない自由な発想でテーマ設定、調べ学習、発表、ディスカッションなどを行っています。

内容：

高校生（神奈川県立総合高校）にインタビュー形式でアンケート調査をし、結果をまとめたもの「高校生とエイズ2」を展示。昨年初めて実施、今年はその2回目でした。AIDSやHIV感染についてどんな認識、印象を持っているか、自分の恋人や友達が感染者だと分かったときどうするか、性行為についての考えなど昨年より踏み込んだ調査を行いました。フォーラムに関わっていない一般の高校生の貴重な声を参加者に届けることは、「今」の高校生の行動や考え方の一部を紹介するという貴重な役割を担っているのではないかと思います。これを高校生たちが主催するセミナーやワークショップに繋げていけたらいいと思います。他団体との協力も含めて、長期にわたる準備ができればもっと内容の充実したものになっていくのではないかと思います。

連絡先：

横浜市金沢区釜利谷西3-35-6 TEL：045-785-9510

E-mail：flexible@mail.goo.ne.jp

◆ エイズと結核のなぞ

主催：ATAC in NARA

結核の予防と早期発見と完全治癒のためには病気についてみんなで楽しく学習することです。

内容：

- 1) ATAC (ANTI TUBERCULOSIS ASSOCIATION CONFERENCE) は、結核やエイズやその他感染症をこれ以上ひろめないために各分野の専門家が集い教育・研究・研修を行うものです。
- 2) 目的に賛同する人は誰でも参加できます。
- 3) 事例のカンファレンスを行う。難治例を検討して、医療機関関係者の研修を行う。
- 4) 啓発活動を行う。DOT（対面服薬指導）を広める
- 5) アンケートをとり評価を行う

フォーラムへのメッセージ：ATACとしては参加者のアンケートを評価して今後の活動の参考にします。エイズだけでなく、その他の感染症にも関心を高めるために来年もがんばって参加いたします。

連絡先：

FAX：0743-78-9841 代表者氏名 畠山雅行

E-mail：m-hatake@m4.kcn.ne.jp



◆ 国境なき医師団日本

主催：国境なき医師団日本

内容：

2005年度AIDS文化フォーラムにおいて国境なき医師団日本が行ったこと資料配布（2004年活動報告書、国境なき医師団紹介パンフレット、ニュースレター、子どもブックレット「国境なき医師団ってなんだろう」）

連絡先：

特定非営利活動法人国境なき医師団日本

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-3-13

TEL：03-5337-1490/FAX：03-5337-1491 URL：<http://www.msf.or.jp>

◆HIV/AIDSについて語ろうよ！

主催：アジアの女性と子どもネットワーク

私たちは、アジアの中でも社会的に抑圧された立場にある女性や子どもの権利を守るための活動をしています。主にタイ山岳民族のための学校建設や奨学金の支給、AIDS予防啓発活動、AIDS孤児支援を行っています。

内容：

2005年5月に発行したシンポジウム報告書「HIV/AIDSについて語ろうよ！～タイから日本から～」(2004年11月開催)の内容の一部をパネルにし、展示しました。世界の主要国のHIV/AIDSや性感染症に対する現状や性教育を日本と比較し、問題点を考えていただきました。また、性感染症やHIV/AIDSに関するクイズを実施し、知っているようで知らない現状や誤った知識を認識していただくことが出来ました。簡単そうなクイズも全問正解者は少なかったです。改めて、うろ覚えの知識の多いことに気付いていただけたのではないかと思います。

タイ・チェンマイのAIDSシェルター「バーン・サバイ」の本も販売させていただきました。タイの感染爆発を沈静化させたAIDS対策が詳しく載っています。正しい知識を持つことが差別をなくす一番の近道だということも理解できました。すぐにでも日本もこれらを参考にして対策を講じなければならないと感じました。

連絡先：

アジアの女性と子どもネットワーク事務局
〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内
TEL/FAX：045-650-5430 E-mail：awc@h6.dion.ne.jp
URL：http://www.awcnetwork.org

知っているようで
知らない現状や
誤った知識を認識

◆体の危険信号あなたは何で知りますか

主催：株式会社さくら医科研究所(さくらメディカルデータ)

当社では、不安感があって検査を受けにくい性感染症の検査を手軽にできるようにすることで早期発見に努め性感染症の拡大を防ぐ事業です。

内容：

商品展示「郵送検査～STD～」

当社が行っている検査項目は次の項目です。

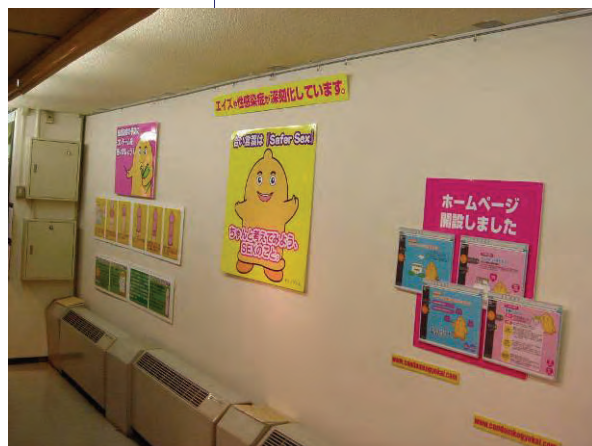
①B型肝炎抗体 ②C型肝炎抗体 ③HIV ④梅毒 ⑤淋菌 ⑥トリコモナス
⑦カンジタ ⑧クラミジア ⑨咽頭淋菌 ⑩咽頭クラミジア

の10項目で、単品および各自自由なくみあわせて検査キットを購入することができます。誰にも知られたくない、誰にも相談できなく悩んでいる方の不安が解消できます。

今回、初日講演で『飯島愛と北山翔子……』の中で、郵送検査にふれられ、講演後多数の方々が展示場へ足を運ばれ、実際に商品を手にとって見たりと関心の高さを感じました。日本国内での郵送検査事業はインターネット上ではさまざまに展開されているが、一般的にはまだまだ認知度が低い。近年、若年層の間にSTDが急速に増えてきて、隠れた感染症も数多いと聞く昨今。今後もHIV(エイズ)に関心ある皆様方を対象に普及に努めたいです。

連絡先：

さくら医科研究所 山田 順一
〒231-0013 横浜市中区住吉町2-24-2住吉24ビル301号
TEL：045-222-9377 E-mail：info@sakuramd.net



◆ 「エイズ患者とエイズ孤児」

主催：NGOアフリカ友の会

中央アフリカ共和国・首都バンギ及び近郊で、診療所と4つの栄養失調児センターを運営。エイズ患者・エイズ孤児・栄養失調児・生活弱者等への支援活動を行いながら、アフリカのエイズ感染拡大防止を目指して活動を続けています。

内容：

最貧国のひとつといわれる中央アフリカ共和国のエイズ患者・エイズ孤児等の写真を展示しました。「アフリカ友の会」の活動を紹介すると共に、アフリカの現状をひとりでも多くの方に伝えたいと思いました。この国では、5人にひとりがエイズ患者及びHIV感染者です。母子感染児も多く、多くの若者や子供がエイズの日和見感染で、日々亡くなっていきます。特に患者の症例の写真は、皆さんの視線を集めていたようです。残されたエイズ孤児の様子も数枚展示しましたが、皆さん大変興味深く見ていたようでした。

「アフリカ友の会」では、エイズに感染し、働く力を失くした女性達に洋裁教室を開き、賃金を払い商品を縫製しています。ミシンを回す彼女らは、皆エイズで亡くなっていきます。縫製した商品は日本に持ち帰り販売しています。バンダナ・エプロン・マルチカバー等、アフリカの生地で作った商品の展示販売も致しました。

「貧しいからといって死なせないで」というアフリカに生きるエイズ患者たちの声が、少しでも届いたでしょうか。

連絡先：

NGOアフリカ友の会 事務局
〒115-0045 東京都北区赤羽2-1-12
TEL：03-3909-7114 E-mail：africa9301@ybb.ne.jp
URL：http://www.geocities.jp/africa_tomonokai/

「貧しいからといって
死なせないで・・・」



コラム 雑感

今年も講座以外に交流をはかる場所として「ネットワーキングパーティー」が開催されました。1日目は、TEAパーティ。2日目は、中華料理を食べながらの交流会です。会場に来てくださった入場者の方・参加団体・ボランティア・実行委員などフォーラムに関係する多くの方が参加してくれました。会場では、真面目な話から気さくな話。初めて参加する人から何年も縁のある人。偶然隣り合わせた人同士が楽しく意見を交わし、また新たなネットワークと可能性が見えた空間でした。来年度この中から新たな企画が生まれるかもしれませんよ！

(AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会)

前実行委員長 広瀬 誠さんのこと

2005年、年明けに突然訃報が入ってきた。広瀬誠先生が異国の地ミャンマーで昇天された知らせであった。2004年12月から1月にかけて横浜YMCAが主催するミャンマーへの医療奉仕活動でボランティア医師として参加されていた。ミャンマーの中でも特に少数民族であるカレン族の多いイエジン村を中心とした医療奉仕活動である。広瀬先生はこの活動の当初から約13年間毎年年末と正月の休みをこの活動にささげていた。

広瀬先生は、同時に1994年から始まった横浜YMCAが主催する「AIDS文化フォーラム in 横浜」の実行委員を引き受けてくださり、第5回目からその実行委員会委員長を引き受けてくださった。ご自分で小児科医師として横須賀共済病院を退職されて、小児科医院を開業されていた。特に先生は弱い立場の人や障害のある人への思いが強かったようです。先生の抱えている患者の中にもHIV感染者がおられたこともあり、このフォーラムへの思いは強いものがあつた。日頃からこのフォーラムへの期待は「若い者への教育がいかに大切か、どのように願いを伝えていくかが問題である。対処療法的なことより長い目でみた教育こそ必要である」と言われていた。

そして実行委員長をその後数年にわたり続けられた。いつもお会いすると「元気ですか？」とニコッと笑いながら声をかけてくれた先生も異国の地で亡くなられた今、私たちは広瀬誠先生の示された生き方に学び、立場の弱い人への思いを引き継いで「AIDS文化フォーラム in 横浜」を続けていきたい。 長澤 勲

1998年(平成10年)8月6日 木曜日

神奈川新聞

エイズへの理解深めて

あすから

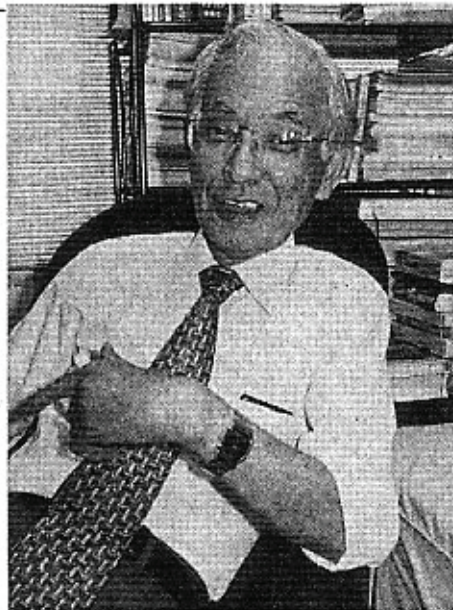
横浜で文化フォーラム

「1998エイズ文化フォーラム・イン横浜」が七日から九日まで、かながわ県民センター(同市神奈川区鶴屋町)で開かれ、エイズ啓発や患者・感染者支援に関する講座などが繰り広げられる。同フォーラム組織委員会と、県の共催。

横浜で国際エイズ会議が

開かれた一九九四年に、市民レベルでのエイズ啓発イベントとして始まり、今年で五回目。

養護教諭によるエイズ教



横浜YMCA常議員 東京都出身。横須賀市へは小学生の時に引っ越した。横須賀YMCA運営委員長も。同市鶴が丘在住。69歳。

広瀬 誠さん

一九九四年に横浜で開かれた国際エイズ会議に合わせ始まった市民イベント「AIDS文化フォーラムin横浜」(かながわ県民センター、七、九日)がここの五日目を迎える。初回からメンバーとしてかかわってきたが、今回は初めて組織委員長に就任した。

「最初は燃え上がるが間もなく消える、という花火のような末路を心配していた。正直なところ、ここまで思の長い活動になるとは夢にも思っていなかった」

振り返る言葉に感慨が込める。「エイズ患者・感染者への差別、偏見をなくしたい」との思いから

エイズを通して優しさを広げたいですね

スタート。やがて「エイズを通じて生命の尊さ、教育の大切さを見つめよう」と幅が広がってきた」という。それだけ多くの市民団体が参加するようになっただけに「まとめ役」の役割は重い。

小児科医師として親子二代で横須賀共済病院に勤めた。現在は市内で小児科医院を開業。診察は白衣姿ではなくいつも普段着。「子どもを緊張させてはいけない」との心遣いからだ。「気張らない自然体が一番」とも。その信条で組織委員長職に臨む。

YMCAがミャンマーへ派遣してきた医療奉仕の団長を五年連続で務める。フォーラムを終えた月末には、準備のためミャンマーへ飛ぶ。(横須賀支局・有吉 敏)

育の事例発表(七日)、エイズ感染者・患者らが連携を呼びかけるシンポジウム「PWAのネットワークを考える」(八日)、エイズをテーマにしたテレビ番組を「神様、もう少しだけ」の上映会(全日)と、主演女優上野千鶴子さんらによるライトーク(九日)、あるエイズ患者の生と死をとらえた大塚敦子さんの写真展

「いのちの贈り物」(全日)など、七十三の講座や展示が行われる。またソーシャルワーカーによるエイズ相談会(八、九日)も。

「このイベントを通じて皆さんと、エイズへの理解を深める時間を共有したい。親子での参加も大歓迎」と実行委員は参加を呼びかけていた。入場無料。問い合わせは横浜YMCA内の同フォーラム事務局045(662)3721。

この人

今年は110名の会場ボランティアがフォーラム会場運営を支えて下さいました。感想を少しだけ紹介させていただきます。

①今回のことを知ったきっかけは？ ②応募動機は？ ③感想や思ったことなど自由に書いてください。



中学校3年生 女性

①学校で配布されたチラシ
②ボランティアに興味があったから。
③初めはボランティアだけに興味がありましたが、1日、2日とボランティアをしていくうちに、全く知らなかったHIV/AIDSにも興味が少してきました。参加できて良かったです。

中学2年生 女性

①インターネットのHPを見た友達の紹介 ②ボランティアをするのは大事だと書いてる本を読み、やってみようと思いました。
③本当に何をすればいいかわからなかったのですが、入場者に挨拶をしたら、挨拶を返してくれたりして、とても気持ちよかったです。本当に良い一日を過ごせました。これからも進んでボランティアに参加したいと思っています。

中学2年生 女性

①インターネット ②学校の課題
③たった一日でしたが、エイズについてたくさん知り、新しい自分に生まれ変わった感じがしました。今日1日、本当にありがとうございました。

小学校教員 男性

①学校に送付されたパンフレット
②第1回より知っていたのでできる時と思って。
③実際に講座の内容を聞けたり、ボランティアの意欲も肌感じられてよかった。職場の仲間や児童にこのよさを徐々に伝えていきたい。

高校3年生 女性

①先生 ②AIDSのことをもっと知りたいと思ったから。
③自分は何も知らないことが分かった。いろいろな年齢の人たちと知り合えて参加してよかったと思いました。

高校2年生 女性

①友達の紹介とHP ②夏休み中の課題。エイズに興味があったので
③このボランティアは初めてだったので、最初は戸惑いましたが。ボランティアを通してプログラムに参加し、エイズ現在の状況を知り、衝撃的な感じを受けました。先進国の中で日本が今、HIV感染者が増えている唯一の国と知って、悲しい気持ちになりました。

高校3年生 女性

①HPで
②毎年参加している恒例行事
③今年はボランティアの人が多くて、いつになく華やかで、色々な人と知り合えて、充実した経験になりました。

自分の意見、
ちゃんと持ってる？

高校3年生 女性

①学校の先生に誘われて ②AIDSに興味があったから ③知らないことがたくさんあって、私は無知だったんだなあって思いました。HIV/AIDSの現状とか、保健・医療も私が学校で習ったことと全然違い、誤解とか差別とか私の中にたくさんあったってことに気が付けて良かったです。ボランティアの人も同年代からずっと先輩の方、私よりも小さい方もいて、すごく驚きました。また、次の年もできれば参加したいです。

専門学校生 女性

①HP ②将来医療従事者になるので興味があった。
③ボランティアの年齢が子どもから大人まで幅広いことにも驚いたのですが、発表団体も私と年齢の変わらない若い人々が行なっているものがあり、ピアエデュケーションが日本においてかなり注目されているのだと実感しました。また、色々な切り口からAIDSを考えている人がいて、色々な試みを行なっている人がいることに感動しました。AIDSをはじめとするSTDは、まだまだ日本人の意識でタブーなところがあるので、これからどうやって正しい知識を一般の人に伝えていったらいいのかを深く考えさせられました。

会社員 男性

①去年のフォーラムの入場者でした。
②入場者だった時、少しでもお手伝いできればと思いました。
③思ったよりも若い人が参加してあったのが驚きであったのと同時にHIV/AIDSの関心が特に若者の間で薄れていると報道されていたが、ここ神奈川ではそうでもないと感じて喜ばしかった。また、本当に手作りの会で参加する方も遠慮なく発言できる環境で良かったと思います。ぜひ来年も参加したいです。

大学1年生 女性

①学校の掲示板
②興味深い内容だったので。
③何をしたらいいのかわからなくて、あまり役に立てなかったです。やはり自発的に行動することが大切だと思いました。いろいろな人と話す機会ができて、とてもいい経験になりました。AIDSは私には関係ないと考えていましたが、誰もがなる可能性のあるものだと思います。みんなが考えなくてはならないことだと気付きました。私も検査を受けてみようと思いました。

**来年はあなたが
ボランティアとして
会場を
支えてみませんか？**



AIDSは私には関係ない
と考えていましたが、
誰もがなる可能性のある
ものだと思います。

フォーラム全体集計表

〈1997→1998→2004→2005 フォーラム全体集計の比較〉

1. AIDS 文化フォーラムを何でしりましたか?(複数回答もあり)

	1997	1998	2004	2005	合計
新聞等	200 (23)	142(17)	10(1)	10(1)	362(10)
ホームページ	1(0)	9(1)	153(18)	213(21)	376(11)
ポスター		7(1)	21(3)	21(2)	49(1)
DM	88(10)	113(14)	71(8)	96(9)	368(10)
チラシ	159(19)	208 (26)	201(24)	204(20)	772 (22)
知り合い	229(27)	165(20)	226 (27)	301 (29)	921 (26)
その他	176(21)	172(21)	162(19)	186(18)	696 (20)
計	853(100)	816(100)	844(100)	1031(100)	3544(100)

※' 97 ' 98の新聞等には、情報誌やテレビ・ラジオ、折り込み広告などを含む

※' 97 ' 98 のパソコン情報をホームページに、ロコミを知り合いと読み替えた。

2. 参加者の年齢

	1997	1998	2004	2005	合計
10代	123(16)	103(14)	86(1)	112(12)	424(13)
20代	150(19)	174(24)	174 (24)	258 (28)	756 (24)
30代	156(20)	164(22)	138(19)	167(18)	625 (20)
40代	189 (25)	176 (24)	169(23)	193(21)	727 (23)
50代	118(15)	85(12)	130(18)	124(14)	457(15)
60代以上	39(5)	32(4)	35(5)	60(7)	166(5)
計	775(100)	734(100)	732(100)	914(100)	3155(100)

3. 参加者の職業等

	1997	1998	2004	2005	合計
保健医療関係	79(13)	100(17)	201 (30)	203(23)	583 (21)
教育関係	78(13)	102(17)	156(23)	218(25)	554 (20)
学生	181 (31)	145 (25)	149(21)	239 (27)	714 (26)
NGO/NPO	-	-	60(9)	86(10)	146(5)
会社員	42(8)	51(9)	-	-	93(4)
公務員	58(10)	51(9)	-	-	109(4)
主婦	60(10)	36(6)	-	-	96(4)
その他	87(15)	101(17)	116(17)	127(15)	431(16)
計	585(100)	586(100)	682(100)	873(100)	2726(100)

※選択肢で、' 97'98にはNGO/NPOが無く、'04'05には会社員などが無かった

〈2005 フォーラム全体集計表〉

1. AIDS 文化フォーラムを何で知りましたか?(複数回答もあり)

	8/5(金)	8/6(土)	8/7(日)	合計	割合
新聞	4(1.0)	2(0.6)	4(1.2)	10	0.9
ホームページ	91(23.8)	61(16.7)	61(18.6)	213	19.8
ポスター	12(3.1)	4(1.1)	5(1.5)	21	1.9
DM	29(7.6)	37(10.1)	30(9.2)	96	8.9
チラシ	83(21.7)	68(18.6)	53(16.2)	204	19.0
知り合い	86(22.4)	104(28.5)	111(33.8)	301	28.0
その他	64(16.7)	72(19.7)	50(15.2)	186	17.3
無記入	14(3.7)	17(4.7)	14(4.3)	45	4.2
計	383(100)	365(100)	328(100)	1,076	100

2. 参加者の年齢

	8/5(金)	8/6(土)	8/7(日)	合計	割合
10代	21(12.4)	32(10.0)	39(13.3)	112	11.9
20代	83(25.2)	105(32.9)	70(23.8)	258	27.3
30代	47(14.2)	61(19.1)	59(20.1)	167	17.7
40代	90(27.3)	49(15.4)	54(18.4)	193	20.5
50代	40(12.1)	43(13.5)	41(13.9)	124	13.1
60代以上	17(5.2)	21(6.6)	22(7.5)	60	6.4
不明	12(3.6)	8(2.5)	9(3.1)	29	3.1
計	330(100)	319(100)	294(100)	943	100

3. 参加者の職業等(複数回答もあり)

	8/5(金)	8/6(土)	8/7(日)	合計	割合
保健医療関係	74(21.6)	64(19.4)	65(21.8)	203	20.9
教育関係	105(30.7)	63(19.1)	50(16.8)	218	22.5
学生	76(22.2)	94(28.5)	69(23.1)	239	24.6
NGO/NPO	23(6.7)	41(12.4)	22(7.4)	86	8.9
その他	43(12.6)	36(10.9)	48(16.1)	127	13.1
不明	21(6.2)	32(9.7)	44(14.8)	97	10.0
計	342(100)	330(100)	298(100)	970	100
その他内訳(主なもの) 会社員、主婦、公務員、団体職員、出版関係、ビデオ制作、保育士、相談員等					

4. 参加者の居住地(2005)

北海道 東北 (1.7)	北海道 5日 6日 1 7日 2 合計 3	青森	秋田 1 1 1 2	岩手 1 3 2 6	宮城 1 1 1 2	福島 1 1	山形 1 1 2		小計 2 7 7 合計 16
関東 (71.3)	神奈川 183 123 130 436	東京 40 61 58 159	千葉 8 15 7 30	埼玉 2 9 4 15	茨城 1 3 5 9	栃木 2 3 4 9	群馬 9 2 3 14		245 216 211 672
中部A (9.5)	愛知 17 24 13 54	静岡 3 4 3 10	山梨 2 6 2 10	長野 2 2 2 2	新潟 7 3 4 14				29 39 22 90
中部B (1.0)	三重	滋賀 5 3 1 9	福井	石川	岐阜	富山			5 3 1 9
関西 (5.4)	大阪 7 7 5 19	和歌山	奈良 2 6 4 12	京都 2 8 4 14	兵庫 4 2 6				15 21 15 51
中国 (1.2)	岡山	鳥取	島根 3 2 5	広島 2 2 2 6	山口				5 4 2 11
四国 (0.0)	香川	徳島	高知	愛媛					0 0 0 0
九州 沖縄 (2.1)	福岡 4 5 4 13	大分 2 2	宮崎 2 2	熊本	佐賀 2 2	長崎 1 1	鹿児島	沖縄	6 6 8 20
海外 (0.3)	米国 2 1 3								2 1 0 3
無記入 (7.5)	21 22 28 71								合計 330 319 294 943

(100.0%)

<AIDS文化フォーラム in 横浜の11年の歩み-開催の概要と経緯>

開催年	1994年	95	96	97	98	99	2000年	01	02	03	04	05年
回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
会場	神奈川県国際交流協会			かながわ県民センター								
開催日数	8日間	3日間										
テーマ	1 市民と海外NGOによるAIDS会議 2 とともに生きる 3 とともに生きるから連帯へ 4 未来へのつどい 5 エンパワーメントへ自立と協働に向けて 6 いまを生きる						7 いま一人ひとりができること 8 " " 9 つながるつながる 10 AIDSこれまでの10年、これからの10年 11 いのちへ市民が続けるAIDSへの取組み 12 つながる空間					
特徴	感染経路を問わず、AIDSとそれを取り巻く状況を、多様に、対等に、文化の視点で考えていく											
プログラム数	58	31	34	72	76	70	64	72	81	74	83	74
参加団体数	40	26	28	56	50	47	49	52	56	55	66	60
入場者数	4,305	2,200	1,600	4,607	5,694	3,240	3,801	3,946	4,808	4,624	6,031	5,509
話題/社会	1 市民のエイズ会議/国際AIDS会議開催 2 母親が語る薬害エイズ/薬害報道の増加 3 性風俗とAIDS/薬害/薬害エイズ和解 4 映画・秋桜/カクテル療法 5 TV・神様もう少しだけ/障害者認定 6 複数作家の写真展/ピル解禁・感染症予防法						7 女性プログラム/女性用コンドーム・薬物乱用 8 バリアについて考える/ハンセン病 9 国際NGO・国際神戸会議/SARS 10 10年の振り返り/国際エイズ会議の延期 11 若者の参加/国際エイズ・バンコク会議 12 アジア・太平洋地区エイズ・神戸会議					
来場者傾向	地元の市民が中心			全国から参加			医療・教育の 専門職増加		国際NGO等幅広く拡大			
広報の特徴	ポスター パンフレット			プログラムを全国の教育・医療 関係機関に配付					ホームページによる広 報スタート			
マスコミ	取り上げ大から減少傾向			夏の定番記事として取り上げは定着するも社会的感心は薄れる								
組織委員	エイズに取組む民間団体が構成し、フォーラムの責任を負う											
運営委員	HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画											
ボランティア	会場運営に市民ボランティアの公募 -小学生から70歳代までの幅広い参加-											
	かながわエイズボランティア育成講座の受講生のフィールドワーク											
	川崎市エイズボランティア講座の受講生のフィールドワーク 夏休み学生ボランティアの増加・チーフボランティア制度											
事務局	横浜YMCA											

■AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

○組織委員会

神奈川県内でHIV/AIDS問題に取りくむ民間団体の代表者で構成されています。

毎年、5月ごろから10にかけて結成され、「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

メンバーin2005

- ◇横浜いのちの電話 榊原高尋
- ◇横浜YWCA 鈴木美鈴
- ◇横浜商工会議所 古田正一
- ◇横浜青年会議所 高橋卓
- ◇横浜YMCA 山根誠之

○運営委員会

フォーラムを実質的に運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、共催・後援（行政）の担当者、ボランティアグループからの参加者、フォーラム大好きでずっとかかわりを持っている方・・・いろいろに人がいます。今年は、初めて大学生2名が運営委員会に加わりました！

◇運営委員長 岩室紳也

◇副委員長 矢部尚美

伊東和子 内田早苗 大江浩 岡島龍彦 金井多恵 郡司すみれ 高村文子 多田由香里

千代木ひかる 中澤まどか 長沢勲 彦根倫子 蒔野絵里子 母袋秀典 吉永陽子 渡會睦子

○事務局

◇横浜YMCA <http://www.yokohamaymca.org>

組織委員会、運営委員会の円滑な運営を助け、年度を越えての継続的な開催を補佐します。11年前にフォーラムを立ち上げる際呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

◇担当：大江浩・郡司すみれ

○ボランティア

フォーラムでは、毎年、60～100名のボランティアが活躍しています。小学生から社会人まで、今年は海外から参加してくれたボランティアもいました。年は110名でした。心から感謝申し上げます。

青木いづみ 赤田真佐子 秋葉賢太郎 秋山さつき 安達麻唯子 阿部孝泰 飯野崇 飯野なつみ
 石川晴美 泉剛志 池田皓子 池田真由美 市川亮太 井上真理 稲毛瓦 井筒雪乃 伊原光明
 岩井香衣 岩本美穂 岩本雅子 岩室享子 植草信吾 内田早苗 大石香織 大館恵子 岡村聡子
 岡村嶺 岡村駿 岡村寛 小川恵未 笠倉彰子 加藤朋子 加々見和美 川崎美喜 川田栄子
 河田夏実 河村紗綾 ガン・クリスティーナ 気谷友理 菊田さとみ 京田理沙 木村芳幸 木村優
 具志翔平 工藤美絵 熊澤祐紀 小泉守 河野ちひろ 小林彩乃 小林未有希 小林由佳
 小俣妙子 近藤和枝 齋藤志津江 坂井悦子 相良賢次郎 佐藤哉美 佐藤友絵 鈴木和沙 鈴木慶子
 鈴木瞳 鈴木舞 鈴木陽子 鈴野有助 瀬霜理恵子 庄司思織 白石知恵子 瀬沼恵美
 高橋明世 高田由美佳 滝澤まい 高橋健 千野友利佳 千安琴弥 照井恒衛 道幸とも 中澤光江
 永野光輝 中村理津 並木陽香 野崎雅子 濱村嘉允 早川絵美 早野優希 端山光 針山佳子
 春谷美帆 比嘉桃子 洪久夫 藤巻沙里 古川英司 松崎薫 水野正浩 宮城実果 宮代憲典
 宮本佐知子 安田洸一 山明真理子 山岸陽子 山田真由美 吉岡美雪 吉田彩美 吉本ちひろ
 吉永さやか 吉川るい子 吉田真麻 吉田美穂 渡辺詢子 渡辺寿美枝



Think
NO SEX or Condom. コンドーム

株式会社ケーシーズ
（有）1400 東京都港区

昨年1年間、世界で500万人が新たにHIVに感染しました。そのうち15～24歳の若者の感染者は、約200万人、1日6,000人（14秒に1人）です。さらに先進諸国のなかで、日本だけが右肩上がりです。毎年感染者数が増加しています。HIV/AIDS（エイズ）は決して特別な病気ではありません。身近な問題としてHIV/AIDS（エイズ）を考えませんか。

年間売上高100億円の株式会社「ケーシーズ」が、HIV/AIDS（エイズ）の啓発活動の一環として、このキャンペーンを実施しました。このキャンペーンは、HIV/AIDS（エイズ）の啓発活動の一環として、このキャンペーンを実施しました。このキャンペーンは、HIV/AIDS（エイズ）の啓発活動の一環として、このキャンペーンを実施しました。

第45回消費者のためになった広告コンクール
「地域広告賞」受賞広告
(主催：日本広告主協会、後援：経済産業省)

「2005 AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書」

発行日：2005年12月1日

発行：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

発行者：山根誠之

編集：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

連絡先：〒231-8458 横浜市中区常磐町1-7

横浜YMCA内 AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

TEL：045-662-3721 FAX：045-651-0169

URL：http://www.yokohamaymca.org/AIDS/

写真と記事は関連していません。ご了承ください。

～あなたも 参加しませんか？～



ボランティアとして…

◇このフォーラムは、市民による、市民のための手作りフォーラムです。毎年、小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層方々がボランティアとして活動し、交流を深めています。第12回のフォーラムでは、100人を超えるボランティアが、会場準備や受付・案内で大活躍してくれました。

◇ボランティアの募集は、毎年5月くらいから、ホームページやチラシ等でご案内しています。あなたも、ボランティアの輪に加わりませんか？

参加団体として…

◇エイズに関する視点をもった内容であれば、どなたでもご参加いただけます。例年、たくさんの団体・個人の方が、医療、保健、教育、差別・人権など、さまざまな切り口でHIV/AIDSに関する発表・展示を行っています。

◇講演、ワークショップ、展示、演劇など、発表の形式は自由です。

◇エントリー費は無料。毎年3月くらいからホームページ、チラシで募集しています。

※フォーラムの趣旨に沿わないと判断した場合は、お断りしています。このフォーラムにおける政治・宗教活動、営利目的、古い因習や差別的考えに基づいた活動はお断りいたします。

※但し、営利企業の商品発表などでも、エイズの情報提供に役立つと判断される場合は参加可能です。また、企業のフィランソロピー（社会貢献）活動としての参加は歓迎いたします。

※詳細はホームページでご確認ください。

2006年予告

「第13回AIDS文化フォーラム in 横浜」

期日：2006年8月4日（金）～8月6日（日）

場所：かながわ県民センター（横浜駅西口徒歩5分）